

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況

- ① 学生の確保の見通し p. 1
 - ア 定員充足の見込み p. 1
 - イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 p. 3
 - ウ 学生納付金の設定の考え方 p. 11
- ② 学生確保に向けた具体的な取組状況 p. 11

(2) 人材需要の動向等社会の要請

- ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） p. 14
- ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもので
あることの客観的な根拠 p. 15

(1) 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

2021 年度に設置を予定する健康科学研究科健康科学専攻（以下「本専攻」という。）の入学定員は博士前期課程で 12 人、博士後期課程で 3 人とする。これは、教育研究の質が担保されることを前提に、同系統の分野を有する他大学大学院や既設の本学健康科学専攻修士課程の定員を踏まえ、かつ、既設の本学健康科学専攻修士課程、同名称同分野を有する他大学大学院の入学志願状況、および本専攻についてのアンケート調査結果から重層的に判断し、定員充足の見込みが十分にある規模として設定している。（本項アで述べる定員充足の見込みの詳細については、根拠資料とともに「イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」にて述べる。）

まず、本専攻博士前期課程の定員設定については、既設の本学健康科学専攻修士課程の入学定員と同数の 12 人とする。これは、本専攻と同系統の分野を有する他大学大学院の定員状況からみても妥当な規模と判断できる。同じく、本専攻博士後期課程の定員についても、他大学大学院の設定状況から妥当な規模であると判断した。

以上の適切な規模としての定員に対する充足の見込みは、まず、本専攻博士前期課程は、既設の本学健康科学専攻修士課程の教育研究を基盤としつつ、学問領域の充実を行っている。既設の本学健康科学専攻修士課程は開設以来一貫して入学定員を上回る志願者を得ており、本専攻においては、学問領域のさらなる充実から現在の入学志願者以上の入学志願者を見込んでいる。新たに拡充する学問領域である救急救命学領域は、大学院教育における東日本地区への地域偏在性が強く、近畿地区における潜在的な進学ニーズが存在すると考えられる。

次に、本専攻博士後期課程については、近隣地域において健康科学分野における教育研究を展開する博士後期課程をもつ大学院が少ない状況にあり、潜在的なニーズが存在すると考えられる。また、その中でも本専攻と同名称、同様の分野を有する畿央大学大学院において安定的に入学志願者を確保している状況がある。さらに、本学健康科学専攻修士課程の入学志願状況等も勘案すると、本専攻博士後期課程において、一定のニーズが存在すると判断できる。

本学では以上のことから本専攻博士前期課程・博士後期課程の定員充足の見込みを得た。この見込みを裏づけるために、本専攻について、本学在学生や近隣の専門職等へのアンケート調査を実施した。その結果、本専攻博士前期課程・博士後期課程ともに十分な入学意向を確認することができた。また、施設・企業等に別途行った調査からも、職員・社員に対する本専攻への入学推奨度の高さが示された。この両アンケート調査から、定員充足の見込みを裏づける十分な入学需要があることが確認された。

■通信教育課程(健康科学部心理学科)の定員未充足に関する説明

基本計画書における定員超過率が 0.7 倍未満である健康科学部心理学科の通信教育課程について述べる。

まず、通信教育課程の入学者の状況として、直近 4 年間の入学定員超過率平均は 0.50 である。この 4 年間で入学者数と在籍者数は増加しており、2016(平成 28)年度には入学定員超過率 0.32、収容定員充足率 0.59 であったのが、2019(令和元)年度には入学定員超過率 0.84、収容定員充足率 0.81 といずれも改善傾向にある(資料 1)。

本学の健康科学部心理学科通信教育課程は 2012(平成 24)年度に通学課程と併せ行うかたちで開設した。開設当時、心理系学部・学科の通信教育課程を持つ大学は、東日本地区に 6 大学(東北福祉大学・東京福祉大学・人間総合科学大学・聖徳大学・東京未来大学・武蔵野大学)であった。申請時に判明していた、2010(平成 22)年度における心理系学部・学科の学生数(正規生)は、武蔵野大学 4,516 人、人間総合科学大学 2,416 人、東北福祉大学 1,200 人、聖徳大学 1,054 人の 4 校が学生数 1,000 人を超えていた(晶文社『通信教育の大学・短期大学・大学院案内 2011-2012 年度用』)。これらの学部・学科は、すべて東日本地区に設置されており、本学は西日本地区で初めての設置であった。現在も西日本地区において心理系学部・学科に特化した通信教育課程を設置しているのは本学のみである。ここで、本学健康科学部心理学科通信教育課程における居住地域別在籍者数を確認すると、本学が所在する京都府と近隣府県を中心に学生が居住していることがわかる(資料 2-①)。このように、通信教育課程においても在学生の地域偏在があることを勘案すると、西日本地区における心理学科通信教育課程には十分な潜在的ニーズがあったと考えられる。

一方で、通信教育課程の学生募集において困難を伴う背景には、通学課程と比べて入学対象者に多様性がある点があげられる。例えば、在籍者の年齢構成についても、10代、20代の若年層だけではなく、30代から 60代以上の多様な層が本学通信教育課程に在籍している(資料 2-②)。このように、さまざまな対象に本学心理学科を周知するには、通学課程以上に時間が必要になる。その点については、2016(平成 28)年 3月に初めての卒業生を送り出し、知名度は着実に上昇していると考えられる。

また、公認心理師が国家資格として 2017(平成 29)年に新たに定められたという社会的ニーズを受け、心理学系領域への受験ニーズも高まっていると考えられる。日本私立学校振興・共済事業団の私学経営情報センターによる私立大学・短期大学等入学志願動向から、心理学部と、心理学部を含む人文科学系学部の入学志願状況をみると、いずれも増加傾向であるが、心理学部は 2019(令和元)年度入試での志願者数・入学志願倍率の伸びがより大きく、この分野への受験ニーズの高まりを表している(資料 3-①)(資料 3-②)。

以上のように本学通信教育課程は知名度の向上と心理学系領域へのニーズの高まり、および後述する学生確保の取組によって、定員充足率の改善が図られている。今後も継続して学生確保に向けた取組を行うことで、定員充足の可能性をさらに高めていくことができると考えられる。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

■他大学大学院の定員設定状況

本専攻と同じく「健康科学」の名称を研究科・専攻に付した大学院は全国に30弱ある(資料4-①)(資料4-②)(資料4-③)。これらの大学院は、名称は本専攻と似通ったものではあるが、理学療法学、作業療法学、栄養学、看護学、保健学、生命科学、臨床心理学、福祉学などの学問分野がさまざまに組み合わせられて構成されている。こうした状況を鑑みると、健康科学という名称を持つ他の大学院の状況からだけでは、本専攻の入学定員の妥当性を判断することは難しいと考えた。

そこで、本専攻博士前期課程の中心的な学問分野となる心理学・理学療法学・救急救命学に関連する分野を持つ近畿地区、とくに学生募集の中心エリアと位置づける滋賀県・京都府・大阪府にある同様の研究科・専攻を参考に、本専攻の入学定員の設定について考えた(なお、滋賀県にはいずれの分野とも設置されておらず、救急救命系の大学院は近畿地区には設置されていないため全国の当該大学院をみている)(資料5)(資料6)(資料7)。これらを見ると、国立大学の大学院では入学定員を数十人に設定している大学があるが、私立大学の大学院においては、数人から10人程度に入学定員を設定している大学が多いことがわかる。本専攻は心理学・理学療法学・救急救命学の複合領域として設置を予定しており、本専攻博士前期課程における入学定員12人は妥当な規模であると判断できる。

さらに、本専攻の領域と近い、心理学・医療系分野を有する健康科学系の博士後期課程を設置する他大学大学院をみると(資料8)、単一分野と複合分野にて教育研究を展開する専攻がそれぞれあるものの、私立大学ではいずれも数人規模に定員を設定していることがわかる。本専攻博士後期課程は複合分野による教育研究を展開することで、より多様な進学ニーズに応えるものであることから、入学定員3人は定員を充足するに妥当な規模であると判断できる。

■既設の健康科学専攻修士課程および畿央大学大学院の入学志願状況

既設の健康科学専攻修士課程は、入学定員を12人に設定しており、2016(平成28)年度の開設以来一貫して、この入学定員12人を上回る志願者を得ている(資料9)。2018(平成30)年度、2019(平成31)年度の入試では、志願者は入学定員12人を上回りつつも、定員を上回るだけの合格者は出ていないが、最新の2020(令和2)年度入試では入学志願倍率は2.2となり過去最高の数値となっている。また、過去5年間の入学定員充足率の平均は約0.92であり1に近い数値となっている。このように、既設の健康科学専攻修士課程は開設以来おおむね安定的に志願者と入学者を得ることができているといえる。今回の本専攻の設置では、既存の健康科学専攻修士課程を基礎としつつ、教育研究のさらなる充実を図っており、現状の入学志願状況をもみても、定員充足の見込みはあると判断できる。さらに、資料7で示すとおり、救急救命学領域における大学院教育は、東京都を中心に関東地方に集中しており地域偏在性が高いことから、近畿地区に

における潜在的なニーズがあることも見込まれる。

加えて、公認心理師が国家資格として 2017(平成 29)年に新たに定められたという社会的ニーズを受け、心理学系領域への受験・進学ニーズが高まっていると考えられる。公認心理師資格取得のためには、公認心理師法施行規則で定める「大学における公認心理師となるために必要な科目」を修得して大学を卒業後、同法施行規則で定める「大学院における公認心理師となるために必要な科目」を修得する必要がある。資料 3-①、3-②にて示す通り、大学における心理学部と、心理学部を含む人文科学系学部の入学志願状況は、いずれも増加傾向であるが、心理学部は 2019(令和元)年度入試での志願者数・入学志願倍率の伸びがより大きく、この分野への受験・進学ニーズの高まりを表している。前述のとおり、公認心理師資格取得のためには、必要な科目を大学院で修得する必要があるため、心理学部への入学志願者の増加は、本専攻博士前期課程を含む、公認心理師法施行規則で定める科目を有する大学院への進学者増加につながるものと考えられる。

以上のように、本専攻博士前期課程での教育研究内容は、既設の健康科学専攻修士課程への進学需要を捉えつつ、さらなる社会的需要の高まりや、地域的な潜在需要に応えるものである。本専攻博士前期課程では入学定員を既設の健康科学専攻修士課程と同数とすることで、より確実な学生確保の見通しを得ることができると考えている。

次に、本専攻博士後期課程については、近隣地域で医療系を含むような健康科学系の博士後期課程をもつ大学院が少ない状況であり(資料 8)、健康科学分野の博士後期課程には潜在的なニーズが存在すると考えられる。また、そのような状況の中で、本学と同じく近畿地区に位置する畿央大学大学院では、本専攻と同一名称である健康科学研究科健康科学専攻博士後期課程を有し、かつ、本専攻と同様の分野をもちつつ、心身の健康の向上に資する横断的な健康科学の教育研究を行っている。この同専攻博士後期課程の入学志願状況をみると、過去 5 年間で概ね入学定員(5名)を充足している(資料 10)。健康科学の分野では、大学ごとに領域やコンセプトが多様ではあるが、畿央大学大学院の状況からは、本専攻博士後期課程での教育研究に対して一定のニーズがあることが読み取れる。また、本専攻博士後期課程は畿央大学大学院健康科学研究科健康科学専攻博士後期課程よりも入学定員を小規模に設定しており、ここからも定員充足の見込みは十分にあると考えられる。

■本専攻への入学意向調査

以上の定員充足の見込みを裏づけるために、本学では下記の対象に対して、本専攻への入学意向を問うアンケートを 2019(令和元)年 11 月から 12 月にかけて実施した。

健康科学研究科健康科学専攻設置に係る入学意向調査対象

博士前期課程	博士後期課程
A. 本学健康科学部3年生（通学課程） -心理学科3年生 -理学療法学科3年生 -救急救命学科3年生	A. 本学健康科学部3年生（通学課程） -心理学科3年生 -理学療法学科3年生 -救急救命学科3年生
B. 本学健康科学部3年生（通信教育課程） -心理学科3年生（通信教育課程）	B. 本学健康科学部3年生（通信教育課程） -心理学科3年生（通信教育課程）
C. 本学主催研修会・勉強会受講者 -理学療法基礎研修受講者 -わかあゆ呼吸ケア勉強会参加者	C. 本学主催研修会・勉強会参加者 -理学療法基礎研修受講者 -わかあゆ呼吸ケア勉強会参加者
—	D. 本学健康科学専攻修士課程在学学生・修了者

調査では、上記A・B・Cの対象には本専攻博士前期課程・博士後期課程への入学意向等について、同一の調査票を用いて質問し、Dには本専攻博士後期課程のみについて入学意向等を質問している。なお、Cの理学療法基礎研修は、主に本学理学療法学科卒業生を対象に、卒後研修として本学が実施しており、わかあゆ呼吸ケア勉強会は、近隣の理学療法士を中心とする医療職を対象に定期的に行っているものである。

○本専攻博士前期課程についての調査結果

A. 本学健康科学部3年生（通学課程）

調査は、本専攻が基礎とする健康科学部心理学科・理学療法学科・救急救命学科の3年生を対象とし、ホームルームクラスで実施した。いずれも開始直後に、本専攻の設置に関するニーズ調査である旨を説明し、アンケートと設置概要を配布して率直な回答を求めた。有効回答数は142人で、内訳は心理学科50人、理学療法学科53人、救急救命学科39人であった（資料11）。

回答結果をみると、まず、大学院進学への関心を尋ねると「とても関心がある」が16人、「関心がある」42人と、回答者の約4割が大学院への進学に関心を示した。次に、本専攻博士前期課程への入学意向を尋ねる質問に対して、「ぜひ入学したい」と17人が回答しており、入学定員を上回る結果となっている。また、「条件があれば入学したい」と回答した回答者も18人おり、合計で35人が本専攻博士前期課程への入学意向を示している。さらに、コース別の入学意向を尋ねる質問では、救急救命学コースを16人が選択しており、大学院での救急救命学領域の教育研究に対する需要の高さが伺えるものであった。

次に、「ぜひ入学したい」「条件があれば入学したい」と回答した回答者に入学時期を尋ねた質問では、「設置されたらすぐに」7人、「数年の社会人経験後」6人、「5年程度の社会人経験後」2人であった。この結果から、設置後も継続的に入学志願者が見込めると判断できる。

B. 本学健康科学部3年生（通信教育課程）

調査は、本学健康科学部心理学科（通信教育課程）の3年生を対象とし、WebのLMS上にアンケートを設定し、本専攻の設置概要を読んだ上で率直な回答を求めた。有効回答数は41人であった（資料12）。

回答結果をみると、まず、大学院進学への関心を尋ねると「とても関心がある」13人、「関心がある」17人と、回答者の7割超が大学院への進学に関心を示した。次に、本専攻博士前期課程への入学意向を尋ねる質問に対して、「ぜひ入学したい」が5人、「条件があれば入学したい」が16人おり、合計で21人が本専攻博士前期課程への入学意向を示したことで、ここでも入学定員を上回る入学意向を確認できた。

次に、「ぜひ入学したい」「条件があれば入学したい」と回答した回答者に入学時期を尋ねた質問では、「設置されたらすぐに」が7人、それ以外は「未定・その他」14人であった。設置から後の入学意向数については今回の調査では不明であるものの、設置時については一定の入学意向を確認することができた。

C. 本学主催研修会・勉強会受講者

調査は、2019（令和元）年11月21日と同年の11月27日に実施した研修会・勉強会において、本専攻の設置におけるニーズ調査である旨を説明し、アンケートと設置概要を配布して率直な回答を求めた。有効回答数は76人であった（資料13）。

回答結果をみると、まず、大学院進学への関心を尋ねると「とても関心がある」が14人、「関心がある」24人と、回答者の約5割が大学院への進学に関心を示した。次に、本専攻博士前期課程への入学意向を尋ねる質問に対して、「ぜひ入学したい」が10人、「条件があれば入学したい」が14人おり、合計で24人が本専攻博士前期課程への入学意向を示したことで、ここでも入学定員を上回る入学意向を確認できた。

次に、「ぜひ入学したい」「条件があれば入学したい」と回答した回答者に入学時期を尋ねた質問では、「設置されたらすぐに」6人、「数年の社会人経験後」4人、「5年程度の社会人経験後」3人であった。この結果から、設置後も継続的に入学志願者が見込めると判断できる。

以上の調査結果から、入学意向数（ぜひ入学したい/条件があれば入学したい）の集計結果を示すと次のとおりであり、入学定員を十分に満たすだけの入学意向を確認することができた。

博士前期課程 入学意向数集計結果

選択肢	A. 本学健康科学部3年生 (通学課程)	B. 本学健康科学部3年生 (通信教育課程)	C. 本学主催研修会・ 勉強会受講者	合計
ぜひ入学したい	17	5	10	32
条件があれば入学したい	18	16	14	48
両回答合計	35	21	24	80

また、入学意向(ぜひ入学したい/条件があれば入学したい)と入学時期(設置されたらすぐに/数年の社会人経験後/5年程度の社会人経験後)のクロス集計結果を示すと次のとおりである。

表4 博士前期課程 入学意向・入学時期クロス集計結果

選択肢		A. 本学健康科学部3年生 (通学課程)	B. 本学健康科学部3年生 (通信教育課程)	C. 本学主催研修会・ 勉強会受講者	合計
ぜひ入学 したい	設置されたらすぐに	6	2	6	14
	数年の社会人経験後	2	0	2	4
	5年程度の社会人経験後	1	0	1	2
	未定・その他	6	2	4	12
条件があれば 入学したい	設置されたらすぐに	1	5	0	6
	数年の社会人経験後	4	0	2	6
	5年程度の社会人経験後	1	0	2	3
	未定・その他	9	12	7	28
両回答合計	設置されたらすぐに	7	7	6	20
	数年の社会人経験後	6	0	4	10
	5年程度の社会人経験後	2	0	3	5
	未定・その他	15	14	11	40

上表に示す通り、アンケートからは、入学意向を示した者のうち「設置されたらすぐに」との回答が20人あり、入学定員を上回るだけの数を確認できた。

また、「数年の社会人経験後」10人、「5年程度の社会人経験後」5人の回答があった。これらの回答はいずれも、健康科学専攻博士前期課程の開設より後の入学意向を示すものであり、長期的・継続的な学生確保の見通しに寄与するものである。これらの数は当該集計結果では入学定員に達していないが、次の観点から、長期的・継続的な学生確保の見通しを示す潜在的な需要が上記の集計結果よりも多くあると考えられる。

まず、アンケートにて「ぜひ入学したい」「条件があれば入学したい」と回答した者

のうち、入学時期を「未定・その他」と回答した者は40人いる点である。

これらの回答者は、入学時期自体は明示していないものの、アンケート実施以降、本学における学修や、医療職としての業務・勉強会などを通じ、より具体的に将来のキャリアが固まっていくものと思われる。それらにより、40人のうち少なくとも一部は、社会人経験を経てからの健康科学専攻博士前期課程への進学を志向し、長期的・継続的な学生確保に寄与するものと考えられる。

次に、健康科学専攻博士前期課程に入学意向をもつ集団は、アンケートの実施対象以外にも存在する点である。そのため、開設よりも後を含めて、実際の入学意向数はアンケートで示される数よりも多くあると考えられる。具体的には、つぎの集団を想定している。

【今回のアンケート対象者の後輩】

アンケートは、本学心理学科・理学療法学科・救急救命学科の3年生(当時)および、理学療法士向けの勉強会・講習会参加者を対象としている。

まず、本学学生のアンケート対象者の後輩にあたる1・2年生は、3年生と同様に各学科にて健康科学に関する学習を進めており、将来的な大学院進学に対する潜在的な需要も同様に存在すると考えられる。さらに、これらの年次の学生に対しては、健康科学専攻博士前期課程開設後により具体的に当該課程の教育研究内容を示せるようになることから、将来的な大学院進学への意識を浸透させやすい。

次に、勉強会・講習会参加者について、これらの勉強会・講習会はアンケート実施当時に実施した単発的なものではなく、本学が継続的に実施しているものである。特に、勉強会の「わかあゆ呼吸ケア勉強会」は、本学理学療法学科開設以降、近隣の理学療法士を中心とする医療職向けに毎年実施しており、近隣の理学療法士等と本学が継続的に交流する場となっている(資料13-②)。このような場を通じて、本学の大学院による教育研究内容を説明することで、アンケート対象者の後輩医療職からの長期的・継続的な入学意向を見込むことができると考える。

【他の専門職やその志望者】

健康科学専攻博士前期課程では、健康科学における横断的な教育研究を展開しつつ、理学療法学、心理学、臨床心理学、救急救命学における高度専門職業人を養成する人材像のひとつとしている。

アンケートは、主に理学療法士向けの勉強会・講習会参加者を対象として実施しており、健康科学専攻博士前期課程が想定する入学志望者はほかに救急救命領域・心理領域等の人材がいる。本学では、これらの専門職者やその志望者に対しても、学部・大学院における実習や、本学が主催するセミナー等のイベントにて継続的に交流を行っている。例えば、本学の心理臨床センターでは、個別の相談のほかに各種イベント・セミナーを実施しており、臨床心理士・臨床心理学専攻の大学院生・周辺領域の専門職向けとして「心理臨床セミナー」を毎年実施している(開催実績は下表参照)。

表5 心理臨床セミナー開催実績

年度	実施日	テーマ	参加人数
2013	10月19日	ゲシュタルト療法入門	15名
2014	7月12日	臨床家のためのフォーカシング	8名
2015	10月3日	ゲシュタルト療法入門	15名
2016	10月22日	精神分析的診療療法入門	15名
2017	11月25日	臨床家のためのフォーカシング	20名
	12月26日	精神分析的診療療法入門	25名
2018	1月12日	精神分析的診療療法入門	25名
2019	2月22日	精神分析的診療療法入門	15名

このような活動を通じて、各専門職やその志望者と交流をはかることで、入学意向を継続的に醸成していくことができると考える。

○本専攻博士後期課程についての調査結果

A. 本学健康科学部3年生（通学課程）

調査は博士前期課程の項で述べた通りに実施している。本専攻博士後期課程への入学意向を尋ねると、「ぜひ入学したい」と10人が回答しており、入学定員を上回る結果となっている。また、「条件があれば入学したい」と回答した回答者も14人おり、合計で24人が本専攻博士後期課程への入学意向を示している（資料11）。

B. 本学健康科学部3年生（通信教育課程）

調査は博士前期課程の項で述べた通りに実施している。本専攻博士後期課程への入学意向を尋ねると、「ぜひ入学したい」が2人、「条件があれば入学したい」が6人おり、合計で8人が本専攻博士後期課程への入学意向を示したことで、ここでも入学定員を上回る進学意向を確認できた（資料12）。

C. 本学主催研修会・勉強会受講者

調査は博士前期課程の項で述べた通りに実施している。本専攻博士後期課程への入学意向を尋ねると、「ぜひ入学したい」と11人が回答しており、入学定員を上回る結果となっている。また、「条件があれば入学したい」と回答した回答者も9人おり、合計で20人が本専攻博士後期課程への入学意向を示している（資料13）。

D. 本学健康科学専攻修士課程在学学生・修了者

調査は、本学健康科学部健康科学専攻修士課程の在学学生および修了者に対し、アンケートと設置概要を郵送し率直な回答を求めた。有効回答数は12人であった（資料14）。なお、健康科学専攻修士課程在学学生・修了者には、本専攻博士後期課程への入学意向と

ともに、入学時期や入学したい理由等も尋ねている。

回答結果をみると、まず、大学院博士後期課程への進学に関心を尋ねると「とても関心がある」が4人、「関心がある」5人と、回答者の7割超が大学院博士後期課程への入学に関心を示した。次に、本専攻博士後期課程への入学意向を尋ねる質問に対して、「ぜひ入学したい」と3人が回答しており、入学定員を充足する結果となっている。また、「条件があれば入学したい」と回答した回答者も4人おり、合計で7人が本専攻博士後期課程への入学意向を示している。

次に、「ぜひ入学したい」「条件があれば入学したい」と回答した学生に入学時期を尋ねた質問では、「設置されたらすぐに」3人、「数年以内に」2人であった。この結果から、本専攻博士後期課程設置時に入学定員を充足する入学意向者があることが確認できた。

また、入学を希望する理由を尋ねる質問（複数回答可）では、「高度な専門職として仕事をしたいから」が5人と最も多く、「将来、大学等の教育者になりたいから」4人、「自分の見識や技術を高めたいから」4人と続いた。本専攻博士後期課程の人材養成目標は、設置の趣旨にも記載のとおり「健康科学における研究機関の研究者の養成」「健康科学における高等教育機関の教育者の養成」「健康科学における高度専門職者の養成」であり、アンケート結果に示される通り、入学希望者のニーズに対応したものであると判断できる。

以上の調査結果から、入学意向数(ぜひ入学したい/条件があれば入学したい)の集計結果を示すと次のとおりであり、入学定員を十分に満たすだけの入学意向を確認することができた。

博士後期課程 入学意向数集計結果

選択肢	A. 本学健康科学部3年生 (通学課程)	B. 本学健康科学部3年生 (通信教育課程)	C. 本学主催研修会・ 勉強会受講者	D.本学健康科学専攻 修士課程在学学生・ 修了者	合計
ぜひ入学したい	10	2	11	3	26
条件があれば 入学したい	14	6	9	4	33
両回答合計	24	8	20	7	59

また、本専攻博士後期課程への入学時期については、D. 本学健康科学専攻修士課程在学学生・修了者に対して尋ねているが、前述の通り、当該対象からは本専攻博士後期課程設置時に入学定員を充足するだけの入学意向があることを確認できた。さらに、上記にて示したように、本専攻博士後期課程については、本学健康科学部3年生や、研修会・勉強会参加者からも入学意向を確認できている。このことから、設置時と、設置後も継続的に入学志願者が見込めると判断できる。

■本専攻への入学推奨度の調査

後述の「②上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠」で述べる本専攻修了生への人材需要調査の中で、調査対象の病院等施設と企業に、職員・社員に対する本専攻への入学推奨度を尋ねている。この調査結果からは、回答した施設・企業の6割以上が本専攻博士前期課程・博士後期課程への入学を職員・社員に勧めたい(「ぜひ勧めたい」「条件があれば勧めたい」の合計)としている。施設・企業等がこのように本専攻の教育研究を評価していることは、そこで就業する者や就職を希望する者の本専攻への入学意向をさらに高めることに寄与すると考えられる。このことから、前述の入学意向調査結果から得る定員充足の見込みをより確実なものとすることができた。

(施設・企業へのアンケート調査の詳細と根拠資料については、後述の「②上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠」にて述べる。)

ウ 学生納付金の設定の考え方

本専攻の初年度納付金は、博士前期課程・博士後期課程ともに72万5000円とする。その内訳は、入学金20万円(入学時のみ)、授業料40万円(年額)、教育充実費12万5000円(年額)である。ただし、臨床心理学コースについては、実習費として別途15万円(年額)を徴収し、初年度納付金の合計は87万5000円である。これは本専攻の教育・研究の実施に十分な基盤を担保しつつ、近隣大学等との競争力を考慮して設定している。

本学と同じく近畿地区に所在し、本専攻の領域と近い、心理学・医療系分野を有する他大学大学院の納付金は、平均でおよそ88万5500円である(資料15)。本専攻の納付金は前述のとおり、これと同等あるいは低額となっており、学生にとっても妥当性のある金額であると考えられる。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保のための広報やその活動として、まずはこれまでの本学大学院研究科と同様に、大学院案内の作成、大学院案内・募集要項の入学希望者への配布、大学院案内・募集要項の病院等入学対象関連施設への配布、大学院ホームページの開設、主に学外の入学希望者を対象とする大学院進学ガイダンスの実施(年2回)を行い、学生確保に努める。特にホームページは近年、広報上の重要性がますます増してきており、教育研究内容や

修了後の進路、科目担当や研究指導の教員紹介など、情報の一層の充実に努めていく。

しかしながら、大学院への入学希望者へのアプローチは、知名度や人気の高い一部の大学院を除くと、媒体等を使った広報活動だけでは学生確保の効果がなかなかあがらないのも事実である。

本学では、フェイスツーフェイスによる直接的な情報提供と進学支援を広報および学生募集活動の大きな柱としたいと考えている。具体的には、ゼミやクラス担当からの在學生(通信教育課程を含む)への情報提供と進学支援、実習病院や消防署などを中心とした日頃から交流のある施設に勤務する理学療法士や救急救命士への情報提供と勧誘、実習指導者会議や前述した「わかあゆ呼吸ケア勉強会」「理学療法基礎研修」、本学心理臨床センターが実施する各種セミナーなど本学主催イベント参加者への情報提供と勧誘などである。こうした機会を通じて、本専攻の説明や個別相談の機会を設けるなど、認知度アップと入学希望者への積極的な進学情報の提供と支援を展開していく。

本学では、以上のような地道な活動が継続的な学生確保につながると考えており、これらを中心に学生募集を実施していく。実際に、既存の本学健康科学専攻修士課程においては、このような活動が実を結んでおり、学生の確保に大きく貢献していると考えられる。

■健康科学部心理学科通信教育課程の学生確保の具体的取組について

通信教育課程の学生確保の取組は、受験希望者層の多様性を考慮した内容で展開している。

まず、通学課程と同様に、広く周知を図る手段として、大学案内パンフレット、DM、新聞や雑誌等への広告、ホームページ展開やWebサイト広告などのメディアを使った広報を展開している。さらに、2014(平成26)年度には、通信教育課程のスマートフォンサイトを新たに構築した。スマートフォンサイトの全体のPV(ページビュー)数は2018(平成30)年度実績で約66万件となっており、受験希望者層へ本学情報を提供するための主要チャネルの一つとして機能している。

一方、通信教育課程であっても、受験希望者に直接接触して、対面で情報提供を行うことが重要であると考えている。そのため、2013(平成25)年度に公益財団法人私立大学通信教育協会に正式加盟し、参加者の多い協会主催の合同説明会に全国規模で参加している。また、本学独自の説明会においては、本学キャンパスを会場とする開催だけでなく、入学志願者の増加をめざし、より交通の便の良い学外での説明会を実施している。2018(平成30)年度は、京都駅前の会場で4回、大阪駅前の会場で5回を含め、合計20回実施し、年々実施回数を増やしている。本学独自の入試説明会・相談会への参加者は次のとおり着実に増加しており、対面の場における受験希望者への情報提供を拡大できていると考える。

通信教育課程の入試説明会・相談会来場者数

年度	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)
来場者数	268	319	487

加えて、近隣の通信制や定時制の高校を訪問し、本学についての情報提供を行っている。

上記の主な取組の2018(平成30)年度実績は下記の通りである。

主な取組	2018(平成30)年度実績
大学案内発行	10,000部
DM発行	25,800部
新聞広告	単体広告：10回 共同広告：4回
関連機関紙広告	5回
説明会・相談会	20回
高校訪問	25回

これらの取組の成果は近年の入学定員充足率、収容定員充足率の改善として表れていると考えられる。さらに、これらの広報的取組のみならず、本学通信教育課程では2018(平成30)年度より公認心理師対応の新カリキュラムを開始するなど、学びの面でも充実を図っている。今後も継続的かつ組織的に学生確保に向けた取組を実施することで充足率の改善が進むことを見込んでいる。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

健康科学研究科健康科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)は、こころとからだに多角的な視点から科学的にアプローチし、現代社会に生きる人々の心身の健康を守り、その向上と新しい生き方の創出に資することのできる、卓越した専門性と実践能力、ならびに高度な研究能力を有する人材を養成することを目的とする。

この教育研究上の目的を実現するため、博士前期課程・博士後期課程それぞれについて、人材養成目標を以下のとおりとする。

■博士前期課程の人材育成目標

○高度専門職業人の養成

人間のこころとからだに多角的な視点から科学的にアプローチして、統合的に健康科学を追究し、心身の健康を守り、その向上と新しい生き方の創出に資することのできる高度専門職業人を養成する。

○将来、教育者・研究者をめざす人材の養成

博士前期課程修了後、健康科学の分野において研究者や後進の教育に携わることを目標として博士後期課程に進学するための知識・能力を養成する。

健康科学研究科健康科学専攻(博士前期課程)は、こころとからだに多角的な視点から科学的にアプローチし、心身の健康を守り、その向上と新しい生き方の創出に資する横断的統合的な健康科学の研究を展開するが、博士前期課程の修了者については、自立して研究する基礎的能力を身につけ、自らの実践を検証し改善することができるように「理学療法学コース」「臨床心理学コース」「心理学コース」「救急救命学コース」の4コースを設定する。これにより、こころとからだに関する多角的視点に加え、系統的な学修を促し、高い専門性を身につけた人材の育成をめざす。

■博士後期課程の人材育成目標

○健康科学における研究機関の研究者の養成

目覚ましい進歩を遂げる健康科学分野において、「根拠に基づく健康科学 Evidence-Based Health Sciences」を創造し、国際的に活躍できる研究者を養成する。

○健康科学における高等教育機関の教育者の養成

豊かな人間性と後進育成への情熱を持ち、卓越した専門的知識と識見に裏づけられた研究力の高い教育者を養成する。

○健康科学における高度専門職者の養成

高度な専門的業務に従事するために必要な研究能力を備え、現場のイノベーションに寄与できるマネジメント能力を有する人材を養成する。

本専攻が養成する高度専門職業人とは、高度化と同時に多様化する臨床心理士をはじめとする心理職や理学療法士、救急救命士などが働く職場環境の変化に対応し、各領域に特化した知識や技術はもちろんのこと、保健医療福祉関連の専門職などが兼ね備えるべきものとして、幅広い教養や一般論として語られることも多い「こころとからだの両面からの理解」というレベルを越えた、心身問題や脳科学に関するより専門的な知識を有し、心理職や医療職などとの協働が高度に実践できる人材のことである。このような人材を養成するため、本専攻は、健康科学の名のもとに1研究科1専攻の大学院として、横断的統合的に教育研究を推進するものである。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

■本専攻博士前期課程の人材需要

設置の趣旨にも記載のとおり、近年、高齢社会の進展、QOL(生活の質)に対する社会の要請の高まりに伴い、医療・看護分野における医療機関と家庭や地域との連携が、地域医療として注目されている。厚生労働省では、団塊の世代が75歳以上となる2025(令和7)年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進している。これは、本専攻にて掲げる目的である「現代社会に生きる人々の心身の健康の向上と新しい生き方の創出」にほかならない。厚生労働省がめざす、住み慣れた地域で自分らしい人生を最期まで続けるためには、これまでの本学健康科学部の心理学科・理学療法学科および健康科学研究科が教育研究や社会貢献活動において進めてきた「心身の健康」「疾病予防」「健康増進」と、それを推進することのできる人材が不可欠であり、高齢化社会の進展とともに、その社会的要請は今後より高まっていくと考えられる。さらに、地域包括ケアシステムの中で想定されている平常時の包括的な地域支援・サービスに加え、近年多発する大規模災害を考えると、緊急時や災害時における地域包括ケアシステムの構築も同様に重要である。本専攻の設置により新たに拡充する救急救命学領域では、平常時だけでなく、緊急時や災害時の地域においても、こころとからだの両面にアプローチすることのできる人材養成とその研究を推進する。本専攻における各領域の研究者が連携して、心身の健康、疾病予防、健康増進、安全管理システム等に関する教育研究を横断的統合的に展開する「健康科学」を追究することで、平常時および緊急時、災害時における人々の心身の健康・安全と、あたらしい生き方の創出という社会的な要請に応えるものである。

また、本学が位置する地域における要請をみると、京都府では2018(平成30)年3月

に、府民・患者の視点から、地域における保健医療資源の充実と、安全で良質な医療を提供する体制の構築を目指すものとして「京都府保健医療計画」を策定している。ここでは、急速な少子・高齢化の進行や生活習慣病の増加などによる疾病構造の変化、医療・介護・福祉連携（いわゆる地域包括ケア）等の課題に対応するものとして、リハビリテーション体制や、救急医療・災害医療体制の整備、精神疾患・認知症等に対する保健医療サービスの提供等、人々の心身の健康と安全を向上させるための包括的な施策が掲げられている。本専攻では、心身の健康、疾病予防、健康増進、安全管理システム等に関する教育研究を横断的統合的に行うことで、個別の領域において専門的・多角的に対応するとともに、他領域人材との緊密な連携を可能とする人材を育成し、これらの地域的な要請に応えていくものである。

さらに、本専攻にて拡充を行う救急救命学領域は、他の医療系領域と比べ、大学院における教育研究体制の整備がより急務であるといえる。設置の趣旨にも示したとおり、2019(平成31)年4月現在、救急救命系学科を持つ全国の大学・学部は15大学・17学部(帝京大学と帝京平成大学は2学部それぞれ設置。このほかに東北福祉大学が副専攻として救急救命士課程を設置している)に上り、東北地方から九州地方まで全国に広く設置されている(資料16)。このように、全国的に、大学において救急救命人材養成の拡大と高度化が図られている背景として、救急救命人材への要請が質・量ともに高まっていることが考えられる。例えば、救急自動車による全国の救急出動件数と搬送人員は2008(平成20)年から2017(平成29)年の10年間で一貫して増加しており(資料17)、また、消防庁「平成30年消防白書」に示されるように、救急救命士の処置範囲の拡大等、救急業務の高度化が図られている。しかし一方で、救急救命学領域における大学院の設置状況をみると、大学院の設置は、救急救命現場において指導的な役割を担う高度専門職業人の養成や、学問としての救急救命学の発展には欠かせないものであるが、現状、特に西日本地区においては極めて不十分な状況にある。設置の趣旨や「①学生の確保の見通し」でも示したとおり、救急救命学領域をもつ大学院の設置状況をみると、東京都に3大学など関東地区の5大学に設置されているが、東海地区以西には2019(平成31)年4月に開設された中部大学大学院(愛知県)のみと非常に偏在している(資料18)。このような状況の中で、救急救命現場の高度専門職業人の養成や、救急救命学領域において教育研究を担うことのできる人材の養成は、社会的な意義が非常に大きいといえる。

加えて、国際的にみても、救急救命における人材養成やそれを担う人材の意義は大きいといえる。独立行政法人国際協力機構(JICA)の「アジア地域ASEAN災害医療・救急医療にかかる情報収集・確認調査 平成27年8月」では、洪水等の自然災害が頻発するASEAN地域において、災害発生時の医療チーム間や地方保健当局等との連携・調整において困難が生じているとの報告がなされている。さらに、カンボジア、ベトナム等では保健セクターにおける災害への備えや対応の優先順位が低いことから十分な取組みが行われていないとの指摘もある。また、救急医療サービスにおいても、これらの国では交通事故の増加に伴う応需搬送体制ニーズが急速に高まりつつも質や安全性において課題を抱えていることも報告されている。同調査では、日本等、先進的な国の

リソースを活用してASEAN地域での災害医療・救急医療体制を整備することも提言されており、救急救命において高度に指導的・教育的立場を担う人材の養成は国際的にも意義は大きい。救急救命学領域の研究科・専攻を有する国士舘大学では、タイやエジプトの医療機関や医師に対して視察の受け入れや研修の実施を行っており、救急救命学領域における教育研究成果の国際的な還元がなされている事例といえる。

■本専攻博士後期課程の人材需要

本専攻博士後期課程では、博士前期課程における人材育成をさらに深化させるとともに、「根拠に基づく健康科学 Evidence-Based Health Sciences」を追究し、心身の健康の向上と新しい生き方の創出に資する横断的統合的な健康科学の教育研究を行う。このような教育研究に対する社会的・地域的要請の大きさは、博士前期課程の項で述べた通りであるが、実際に、これからの健康科学の教育研究を発展させ、また、健康科学における臨床現場の高度化を指導的立場で担うことのできる人材を養成するための博士後期課程は、近畿地区において整備がまだ十分ではないといえる。

設置の趣旨にも示すとおり、本専攻が包含する学問分野である心理学分野や医療分野を有する健康科学系の博士後期課程の大学院は2019(平成31)年4月現在、近畿地区において18校ある(資料8)。このうち、健康科学を冠する研究科を持つ大学院(スポーツ系を除く)は、奈良県に所在する畿央大学大学院のみとなっている(1研究科1専攻の構成)。また、リハビリテーション系を含む医療分野の博士後期課程は、京都大学大学院、大阪府立大学大学院、森ノ宮医療大学大学院、神戸大学大学院、神戸学院大学大学院と5校あり、うち3校が医療分野の複合領域で構成され、残り2校はリハビリテーション領域である。また、心理学分野は11校あり、うち甲南大学大学院、甲南女子大学大学院、神戸女学院大学大学院が人間科学など複数の学問領域を包含している。このほか、リハビリテーション系を主要領域としない医療分野の複合領域で構成される博士後期課程が大阪大学大学院に設置されている。以上のように近畿地区においては、心理学単独の研究科または専攻は多いが、医療分野を含むような健康科学系の博士後期課程を有する大学は極めて少ない。特に、本学が所在する京都地区、また私立大学院は設置が少なく、地域的、設置形態的に見ても本専攻博士後期課程における人材養成はその必要性が高いといえる。

■施設・企業へのアンケート調査

本学では、本専攻の養成する人材のニーズを客観的に把握するため、臨床心理士・公認心理師 実習施設、理学療法学科 実習施設、救急救命学科 実習施設を含む滋賀県・京都府・大阪北部・奈良北部に所在する精神科の病院・診療所、児童福祉施設、老人福祉施設、消防本部、上場企業を中心とした大手企業に対し、本専攻の設置概要を示し、人材需要に関するアンケートを実施した。なお、有効回答数は167件であった(資料19)。

まず、大学院への進学が重要かどうかを尋ねると、「重要である」が 13.8% (23 件)、「分野によっては重要である」が 52.1% (87 件)であった。合計すると約 65%の施設・企業が大学院進学的重要性を認めていることがわかる。

次に、本専攻博士前期課程についての回答をみると、本専攻博士前期課程への入学を職員・社員に推奨するかどうか聞いた質問では、「ぜひ勧めたい」が 16 件(回答全体の 9.6%)、「条件があれば勧めたい」が 98 件(同 58.7%)であった。7 割近い施設・企業が本専攻博士前期課程への入学を職員・社員に推奨すると答えている。この結果を前述の大学院進学的重要性の質問結果とクロスさせ集計した結果は次のとおりである。

大学院進学的重要性と本専攻博士前期課程進学への推奨度のクロス集計結果

設問・選択肢		大学院への進学について					合計
		重要である	分野によっては重要である	あまり重要ではない	全く重要ではない	無回答	
本専攻博士前期課程進学に対する職員・社員への推奨について	ぜひ勧めたい	13	3	-	-	-	16
	条件があれば勧めたい	10	72	14	-	2	98
	勧めたいとは思わない	-	11	33	5	-	49
	その他・無回答	-	1	-	-	3	4
合計		23	87	47	5	5	167

この結果をみると、大学院進学が「重要」「分野によって重要」と回答した大部分の施設・企業が、本専攻博士前期課程への入学を推奨していることがわかった。さらに、本専攻博士前期課程の修了生の採用について聞いた質問では、「ぜひ採用したい」が 32 件、「採用を検討する」が 81 件と、入学定員を大きく上回る採用意向を確認することができた。このことから、本専攻博士前期課程への人材需要は非常に大きいと判断できる。

次に、本専攻博士後期課程についての回答をみると、本専攻博士後期課程への入学を職員・社員に推奨するかどうか聞いた質問では、「ぜひ勧めたい」が 15 件(回答全体の 9.0%)、「条件があれば勧めたい」が 94 件(同 56.3%)であった。約 65%の施設・企業が本専攻博士後期課程への進学を職員・社員に推奨すると答えている。博士前期課程と同様に、この結果を前述の大学院進学的重要性の質問結果とクロスさせ集計した結果は次のとおりである。

大学院進学的重要性と本専攻博士後期課程進学への推奨度のクロス集計結果

設問・選択肢		大学院への進学について					合計
		重要である	分野によっては重要である	あまり重要ではない	全く重要ではない	無回答	
本専攻博士後期課程進学に対する職員・社員への推奨について	ぜひ勧めたい	13	2	-	-	-	15
	条件があれば勧めたい	10	70	12	-	2	94
	勧めたいとは思わない	-	13	35	5	-	53
	その他・無回答	-	2	-	-	3	5
合計		23	87	47	5	5	167

この結果をみると、大学院進学が「重要」「分野によって重要」と回答した大部分の施設・企業が、博士前期課程と同じく本専攻博士後期課程への入学を推奨していることがわかった。さらに、本専攻博士後期課程の修了生の採用について聞いた質問では、「ぜひ採用したい」が31件、「採用を検討する」が74件と、入学定員を大きく上回る採用意向を確認することができた。このことから、本専攻博士後期課程への人材需要は非常に大きいと判断できる。

資料目次

- 資料1 健康科学部心理学科（通信教育課程）の入学者数・在籍者数の状況
- 資料2 健康科学部心理学科（通信教育課程）の在籍者の状況
- 資料3 心理学部・人文科学系学部への入学志願状況
- 資料4－ ①健康科学研究科を持つ大学院
②健康科学を冠する研究科を持つ大学院
③健康科学を冠する専攻を持つ大学院
- 資料5 心理学系関連大学院（修士課程・博士前期課程）設置状況（京都府・大阪府）
- 資料6 理学療法学関連大学院（修士課程・博士前期課程）設置状況（京都府・大阪府）
- 資料7 救急救命学関連大学院（修士課程・博士前期課程）設置状況（全国）
- 資料8 近畿地区における心理学分野・医療系分野を有する大学院（博士後期課程）の設置状況
- 資料9 既設の健康科学研究科健康科学専攻（修士課程）の入学志願状況
- 資料10 畿央大学大学院健康科学研究科健康科学専攻（博士後期課程）の入学志願状況
- 資料11 入学意向調査結果：本学健康科学部3年生（通学課程）
別添資料 調査票
別添資料 設置概要 ※資料12・13・14・19と共通
- 資料12 入学意向調査結果：本学健康科学部心理学科（通信教育課程）3年生
別添資料 調査票
- 資料13 入学意向調査結果：本学主催研修会・勉強会受講者
別添資料 調査票
- 資料13－ ②「わかあゆ呼吸ケア勉強会」実績
- 資料14 入学意向調査結果：本学健康科学専攻（修士課程）在学生・修了者
別添資料 調査票
- 資料15 近畿地区における心理学分野・医療系分野を有する大学院の初年度納付金
（博士後期課程を持つ大学院）
- 資料16 救急救命系学科の設置状況（全国）
- 資料17 全国の救急出動件数及び搬送人員の推移
- 資料18 救急救命学関連大学院（修士課程・博士前期課程・博士後期課程）設置状況（全国）
- 資料19 人材需要調査結果：病院・施設・企業等対象
別添資料 調査票

資料1 健康科学部心理学科（通信教育課程）の入学者数・在籍者数の状況

2019(令和元)年度5月1日現在

項目	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)
入学者数	59	61	95	152
入学定員	180	180	180	180
入学定員超過率	0.32	0.33	0.52	0.84
在籍者数*1	639	672	756	883
収容定員	1080	1080	1080	1080
収容定員充足率	0.59	0.62	0.70	0.81

入学定員超過率4年間平均：0.50

*1 編入学者数含む

資料2 健康科学部心理学科（通信教育課程）の在籍者の状況

①2019年度通信教育課程の居住地域別在籍者数

地区		在籍者数	地区別割合
北海道・東北		21	2.4%
関東・甲信越		54	6.1%
北陸		19	2.2%
東海		88	10.0%
近畿		588	66.6%
内 数	滋賀	66	7.5%
	京都	179	20.3%
	大阪	205	23.2%
	他近畿	138	15.6%
中国		47	5.3%
四国		18	2.0%
九州・沖縄		48	5.4%
合計		883	100%

②2019年度通信教育課程の年代別在籍者数

年代	在籍者数	割合
10代	43	4.9%
20代	190	21.5%
30代	164	18.6%
40代	269	30.5%
50代	181	20.5%
60代以上	36	4.1%
合計	883	100.0%

資料3 心理学部・人文科学系学部への入学志願状況

①全国の心理学部への入学志願状況

項目	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2019/2016
志願者数	15,051	17,324	23,026	28,076	1.9
定員	2,195	2,185	2,723	2,713	1.2
入学志願倍率	7	8	8	10	1.5

②全国の人文科学系学部への入学志願状況

項目	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2019/2016
志願者数	525,219	556,791	615,363	645,482	1.2
定員	69,619	69,921	69,538	68,694	1.0
入学志願倍率	8	8	9	9	1.2

出典：日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター

「私立大学・短期大学等入学志願動向」(各年度版)

資料4 - ① 健康科学研究科を持つ大学院

No.	設置形態	所在地	大学院名	研究科名	専攻名	課程	入学定員	主要学問領域
1	私立	京都	京都橘大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	M	12	心理、理学療法
2	公立	青森	青森県立保健大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	M	10	看護、理学療法、社会福祉、栄養
					健康科学専攻	D	4	
3	私立	東京	帝京平成大学大学院	健康科学研究科 ※そのほか、臨床心理学研究科臨床心理学専攻(M)あり	理学療法学専攻	M	3	理学療法
					作業療法学専攻	M	3	作業療法
					言語聴覚学専攻	M	3	言語聴覚
					健康栄養学専攻	M	3	栄養
					病院前救急医療学専攻	M	3	救急医療
					柔道整復学専攻	M	3	柔道整復
					鍼灸学専攻	M	3	鍼灸
					臨床心理学専攻	D	2	臨床心理
					健康科学専攻	D	5	理学療法、作業療法、言語聴覚、栄養、救急医療、柔道整復、鍼灸
4	私立	神奈川	東海大学大学院	健康科学研究科	看護学専攻	M	10	看護
					保健福祉学専攻	M	10	社会福祉
5	私立	静岡	常葉大学大学院	健康科学研究科	健康栄養科学専攻	M	5	栄養
					臨床心理学専攻	M	10	心理
6	私立	長野	松本大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	M	6	栄養、運動
7	私立	愛知	至学館大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	M	10	栄養、運動
8	私立	愛知	豊橋創造大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	M	6	リハビリ(理学療法)、看護
9	私立	奈良	畿央大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	M	20	リハビリ(理学療法)、看護、栄養、人間環境
					健康科学専攻	D	5	健康生命科学、健康支援科学

出典：各大学HPより

資料4 - ② 健康科学を冠する研究科を持つ大学院

No.	設置形態	所在地	大学院名	研究科名	専攻名	課程	入学定員	主要学問領域
10	公立	東京	首都大学東京大学院	人間健康科学研究科	人間健康科学専攻	M	70	看護、理学療法、作業療法、放射線、生命科学、運動、栄養
					人間健康科学専攻	D	25	
11	公立	長崎	長崎県立大学大学院	地域創生研究科	人間健康科学専攻	M	8	看護、栄養
				人間健康科学研究科	栄養科学専攻	D	3	栄養
12	私立	茨城	流通経済大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ科学専攻	M	10	運動
13	私立	千葉	順天堂大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	M	61	運動
					スポーツ健康科学専攻	D	10	
14	私立	埼玉	大東文化大学大学院	スポーツ・健康科学研究科	スポーツ・健康科学専攻	M	10	運動、臨床検査
15	私立	東京	駒澤大学大学院	医療健康科学研究科	診療放射線学専攻	M	14	放射線
					診療放射線学専攻	D	3	放射線
16	私立	愛知	中部大学大学院	生命健康科学研究科	生命医科学専攻	M	12	生命科学、生命医用工
					生命医科学専攻	D	3	
					看護学専攻	M	6	看護
					リハビリテーション学専攻	M	6	理学療法、作業療法
					保健医療学専攻	M	6	救急救命、運動
17	私立	滋賀	立命館大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	M	25	運動
					スポーツ健康科学専攻	D	8	
18	私立	京都	同志社大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	M	8	運動
					スポーツ健康科学専攻	D	3	
19	私立	福岡	福岡大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	M	12	運動
					スポーツ健康科学専攻	D	4	

出典：各大学HPより

資料4 - ③ 健康科学を冠する専攻を持つ大学院

No.	設置形態	所在地	大学院名	研究科名	専攻名	課程	入学定員	主要学問領域
20	国立	東京	東京大学大学院	医学系研究科	健康科学・看護学専攻	M	25	看護
					健康科学・看護学専攻	D	25	看護
21	国立	京都	京都大学大学院	医学研究科	人間健康科学系専攻	M	49	看護、リハビリ(理学療法、作業療法)、臨床検査
					人間健康科学系専攻	D	15	
22	国立	広島	広島大学大学院	医系科学研究科	総合健康科学専攻	M	12	看護、理学療法、作業療法、口腔保健、口腔工、薬学、放射線、生命科学
					総合健康科学専攻	D	4	
23	私立	茨城	茨城キリスト教大学大学院	生活科学研究科	食物健康科学専攻	M	5	栄養
24	私立	埼玉	人間総合科学大学大学院	人間総合科学研究科 ※他に臨床心理学専攻(M)あり	心身健康科学専攻(通信制)	M	30	心理学、脳科学、生命科学
					心身健康科学専攻(通信制)	D	9	
25	私立	愛知	愛知学院大学大学院	心身科学研究科 ※他に心理学専攻(M・D)あり	健康科学専攻	M	10	歯学、運動、心理、生命科学、言語聴覚、栄養
					健康科学専攻	D	4	
26	私立	岡山	川崎医療福祉大学大学院	医療技術学研究科	健康科学専攻	D	2	運動、栄養
27	公立	大分	大分県立看護科学大学大学院	看護学研究科	健康科学専攻	M	2	理学療法、作業療法、栄養、放射線、臨床検査、臨床工
					健康科学専攻	D	2	

出典：各大学HPより

※このほか、東京農工大学大学院 生物システム応用科学府および早稲田大学大学院 理工学術院 先進理工学研究科の共同大学院、共同先進健康科学専攻(D)がある。

資料5 心理学系関連大学院(修士課程・博士前期課程)設置状況(京都府・大阪府)

No.	設置者	大学院名	研究科名	専攻名	コース・分野・領域等	入学定員
1	私立	大谷大学大学院	文学研究科	教員・心理学専攻	心理学、教育学	8
2	私立	京都光華女子大学大学院	心理学研究科	臨床心理学専攻		10
3	私立	京都先端科学大学大学院	人間文化研究科	人間文化専攻	臨床心理学コース、心理学コース、文化研究コース、社会情報コース	10
4	私立	京都女子大学大学院	発達教育学研究科	心理学専攻	臨床心理学領域、心理学領域	8
5	私立	京都ノートルダム女子大学大学院	心理学研究科	臨床心理学専攻		10
				発達・学校心理学専攻		5
6	私立	京都文教大学大学院	臨床心理学研究科	臨床心理学専攻		30
7	私立	同志社大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	臨床心理学コース、心理学コース	10
8	私立	花園大学大学院	社会福祉学研究科	社会福祉学専攻	臨床心理学領域、社会福祉学領域	10
9	私立	佛教大学大学院	教育学研究科	臨床心理学専攻	力動臨床心理学(第1領域)、行動臨床心理学(第2領域)、社会臨床心理学(第3領域)	10
10	私立	立命館大学大学院	人間科学研究科	人間科学専攻	臨床心理学領域、対人援助学領域	65
11	私立	龍谷大学大学院	文学研究科	臨床心理学専攻		10
12	国立	大阪大学大学院	人間科学研究科	人間科学専攻	先端人間科学講座、人間行動学講座、行動生態学講座、社会環境学講座、基礎人間科学講座、臨床教育学講座(臨床心理学研究分野他4分野)、教育環境学講座	89
13	私立	追手門学院大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	臨床心理学コース、生涯発達・生涯教育心理学コース、社会・環境・犯罪心理学コース	25
14	私立	大阪経済大学大学院	人間科学研究科	臨床心理学専攻	子どもの心理臨床領域、身体心理臨床領域、産業心理臨床領域	10
15	私立	大阪樟蔭女子大学大学院	人間科学研究科	臨床心理学専攻		8
16	私立	大阪人間科学大学大学院	人間科学研究科	人間科学専攻	心理学専門職コース、心理学総合コース	10

No.	設置者	大学院名	研究科名	専攻名	コース・分野・領域等	入学定員
17	私立	関西大学大学院	心理学研究科	心理臨床学専攻(専門職学位課程)		30
				心理学専攻		12
18	私立	関西福祉科学大学大学院	社会福祉学研究科	心理臨床学専攻		10
19	私立	近畿大学大学院	総合文化研究科	心理学専攻	心理学コース、臨床心理学コース	6
20	私立	帝塚山学院大学大学院	人間科学研究科	臨床心理学専攻(専門職学位課程)		20
21	私立	梅花女子大学大学院	現代人間学研究科	心理臨床学専攻		12

出典：各大学HPより

資料6 理学療法学関連大学院(修士課程・博士前期課程)設置状況(京都府・大阪府)

No.	設置者	大学院名	研究科名	専攻名	コース・分野・領域等	入学定員
1	国立	京都大学大学院	医学研究科	人間健康科学系専攻	看護科学コース、検査技術科学コース、リハビリテーション科学コース、近未来人間健康科学融合ユニット	49
2	公立	大阪府立大学大学院	総合リハビリテーション学研究科	総合リハビリテーション学専攻	臨床支援系領域、生活機能・社会参加支援系領域、栄養支援系領域	15
3	私立	大阪電気通信大学大学院	医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻	生体医工学分野、医療工学分野、福祉工学分野、健康運動科学分野、リハビリテーション科学分野	10
4	私立	大阪保健医療大学大学院	保健医療学研究科	保健医療学専攻	生活機能支援学分野(脳神経疾患身体障害支援学領域、運動器疾患・スポーツ傷害身体障害支援学領域、認知・コミュニケーション障害支援学領域、健康生活支援学領域)	6
5	私立	関西医療大学大学院	保健医療学研究科	保健医療学専攻	臨床研究(臨床鍼灸学、臨床身体機能学、医科学)、基礎研究(機能形態学、生体情報学、病態情報学等)	9
6	私立	森ノ宮医療大学大学院	保健医療学研究科	保健医療学専攻	健康増進領域、健康回復領域	6

出典：各大学HPより

資料7 救急救命学関連大学院(修士課程・博士前期課程)設置状況(全国)

No.	設置者	所在地	大学院名	研究科名	専攻名	コース・分野・領域等	入学定員
1	私立	栃木県	帝京大学大学院	医療技術学研究科	救急救護学専攻		5
2	私立	東京都	杏林大学大学院	保健学研究科	保健学専攻	救急救命学分野	7
3	私立	東京都	国士舘大学大学院	救急システム研究科	救急システム専攻		10
4	私立	東京都	帝京平成大学大学院	健康科学研究科	病院前救急医療学専攻		3
5	私立	神奈川県	日本体育大学大学院	保健医療学研究科	保健医療学専攻	救急災害医療学コース	8
6	私立	愛知県	中部大学大学院	生命健康科学研究科	保健医療学専攻	救急医療学・健康増進学	6

出典：各大学HPより

資料8 近畿地区における心理学分野・医療系分野を有する大学院(博士後期課程)の設置状況

2019(平成31)年4月現在

No.	所在地	設置形態	大学院名	研究科名	専攻名	分野・領域	入学定員
1	京都府	国立	京都大学大学院	医学研究科	人間健康科学系専攻	看護科学、検査技術科学、リハビリテーション科学	15
2	京都府	私立	京都ノートルダム女子大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	心理学	4
3	京都府	私立	同志社大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	心理学	6
4	京都府	私立	龍谷大学大学院	文学研究科	臨床心理学専攻	心理学	2
5	大阪府	国立	大阪大学大学院	医学系研究科	保健学専攻	統合保健看護科学分野、医療科学技術分野	23
6	大阪府	公立	大阪府立大学大学院	総合リハビリテーション学研究科	総合リハビリテーション学専攻	総合リハビリテーション学	5
7	大阪府	私立	追手門学院大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	心理学	3
8	大阪府	私立	関西大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	心理学	6
9	大阪府	私立	森ノ宮医療大学大学院	保健医療学研究科	医療科学専攻	健康機能科学、医療技術開発	2
10	兵庫県	国立	神戸大学大学院	保健学研究科	保健学専攻	看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域、パブリックヘルス領域	25
11	兵庫県	私立	関西学院大学大学院	文学研究科	総合心理科学専攻	心理学	6
12	兵庫県	私立	甲子園大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	心理学	2
13	兵庫県	私立	甲南大学大学院	人文科学研究科	人間科学専攻	環境・芸術・思想、心理臨床	3
14	兵庫県	私立	甲南女子大学大学院	人文科学総合研究科	心理・教育学専攻	心理学、教育学	3
15	兵庫県	私立	神戸学院大学大学院	総合リハビリテーション学研究科	医療リハビリテーション学専攻	リハビリテーション	3
16	兵庫県	私立	神戸女学院大学大学院	人間科学研究科	人間科学専攻	臨床人間科学、人間環境科学	2
17	奈良県	私立	畿央大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	健康生命科学、健康支援科学、ライフテクノロジー（生活支援技術）学分野	5
18	奈良県	私立	帝塚山大学大学院	心理科学研究科	心理科学専攻	心理学	3

出典：各大学HPより

※スポーツ関係の健康科学系大学院は除外した

資料9 既設の健康科学研究科健康科学専攻(修士課程)の入学志願状況

項目	2016年度 (平成28)	2017年度 (平成29)	2018年度 (平成30)	2019年度 (平成31)	2020年度※ (令和2)
志願者数	15	20	15	15	26
受験者数	15	20	13	14	21
合格者数	12	14	9	8	13
入学者数	12	14	9	8	12
入学定員	12	12	12	12	12
入学志願倍率	1.3	1.7	1.3	1.3	2.2
実質倍率	1.3	1.4	1.4	1.8	1.8
入学定員充足率	1.0	1.2	0.8	0.7	1.0

資料10 畿央大学大学院健康科学研究科健康科学専攻(博士後期課程)の入学志願状況

項目	2015年度 (平成27)	2016年度 (平成28)	2017年度 (平成29)	2018年度 (平成30)	2019年度 (平成31)
志願者	6	5	11	9	5
入学者	5	4	6	9	5
入学定員充足率	1.0	0.8	1.2	1.8	1.0

資料11 入学意向調査結果：本学健康科学部3年生（通学課程）

●調査内容

京都橘大学が2021(令和3)年4月に開設予定の健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要を提示し、同専攻に対する入学意向を測定するため、アンケート調査を実施した。

●調査時期

2019(令和元)年11月～12月

●調査対象・方法

本学健康科学部の心理学科・理学療法学科・救急救命学科の在学生(3年生)を対象に実施。いずれも各ホームルームクラスで実施し、開始直後に健康科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)の設置に関するニーズ調査である旨を説明し、アンケートと設置概要を配布して率直な回答を求めた。

●有効回収率

76.3%(142人/186人)

有効回答142人の内訳－心理学科3年生50人、理学療法学科3年生53人、救急救命学科3年生39人

質 問	選 択 肢	回答数	構成比
●性別	1. 男	74	52.1%
	2. 女	65	45.8%
	無回答	3	2.1%
Q1.大学院進学への関心	1. とても関心がある	16	11.3%
	2. 関心がある	42	29.6%
	3. あまり関心がない	50	35.2%
	4. 全く関心がない	33	23.2%
	無回答	1	0.7%
Q2.本学研究科博士前期課程への入学意向 ※Q1で1、2と回答した者	1. ぜひ入学したい	17	29.3%
	2. 条件があれば入学したい	18	31.0%
	3. 入学したいと思わない	5	8.7%
	4. わからない	18	31.0%
	無回答	0	0.0%
SQ1.希望コース ※Q2で1、2と回答した者	1. 理学療法学科コース	5	14.3%
	2. 臨床心理学コース	8	22.9%
	3. 心理学コース	2	5.7%
	4. 救急救命学コース	16	45.7%
	5. 未定	3	8.6%
	無回答	1	2.9%

SQ2.入学したい理由 (複数回答可)	1. 高度な専門職として仕事をしたいから	18	29.0%
	2. 臨床心理士や公認心理師の資格を取得したいから	9	14.5%
	3. 将来、研究機関などの研究者になりたいから	5	8.1%
	4. 将来、大学等の教育者になりたいから	7	11.3%
	5. 将来、臨床現場で指導的立場の職に就きたいから	6	9.7%
	6. 自分の見識や技術を高めたいから	16	25.8%
	無回答	1	1.6%
SQ3.入学時期 ※Q2で1、2と回答した者	1. 設置されたらすぐに	7	20.0%
	2. 数年の社会人経験後	6	17.1%
	3. 5年程度の社会人経験後	2	5.7%
	4. 未定・その他	15	42.9%
	無回答	5	14.3%
Q3.本学研究科博士後期課程 への入学意向 ※Q1で1、2と回答した者	1. ぜひ入学したい	10	17.2%
	2. 条件があれば入学したい	14	24.1%
	3. 入学したいと思わない	1	1.7%
	4. わからない	14	24.1%
	無回答	19	32.8%
<p>●自由記述(要望や期待すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学費 (心理学科3回生・男) ・学費 (心理学科3年生・女) ・博士課程に行きたいと思ったら入学したい。研究が取組めれば入学したい。(心理学科3年生・女) ・消防に入局してから大学院での研究を行いたい。 			

SQ2. (Q2で1, 2と回答した方) 入学したい理由は何ですか。(複数回答可)

1. 高度な専門職として仕事をしたいから
2. 臨床心理士や公認心理師の資格を取得したいから
3. 将来、研究機関などの研究者になりたいから
4. 将来、大学等の教育者になりたいから
5. 将来、臨床現場で指導的立場の職に就きたいから
6. 自分の見識や技術を高めたいから
7. その他、具体的にご記入ください

SQ3. (Q2で1, 2と回答した方) 入学時期は、いつ頃を考えていますか。(1つに○)

1. 設置されたらすぐに
2. 数年の社会人経験後
3. 5年程度の社会人経験後
4. 未定・その他

Q3. (Q1で1, 2と回答した方) 本研究科博士後期課程に入学したいと思いますか。(1つに○)

1. ぜひ入学したい
2. 条件があれば入学したい(具体的な条件：)
3. 入学したいと思わない
4. わからない

Q4. 本研究科に要望や期待することがあれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

京都橘大学大学院 健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要〈予定〉

1. 名称・設置場所

名称：京都橘大学大学院 健康科学研究科 健康科学専攻(博士前期・後期課程)〈仮称〉
設置場所：京都市山科区大宅山田町 34

2. 定員および学位の名称

【博士前期課程】 入学定員 14 人(収容定員 28 人)／標準修業年限 2 年／修士(健康科学)
【博士後期課程】 入学定員 3 人(収容定員 9 人)／標準修業年限 3 年／博士(健康科学)

3. 設置目的

こころとからだに多角的にアプローチし、現代社会に生きる人々の心身の健康を守り、その向上と新しい生き方の創出に資することのできる、卓越した専門性と実践能力を有する人材を養成する。

4. 人材養成目標

【博士前期課程】

こころとからだに関する多角的視点に加え、系統的な学修を促し、高い専門性を身につけた高度専門職業人を育成するため、以下の4コースを設定する。また、将来、教育者・研究者をめざす人材の養成も行う。

- 理学療法学コース：生活機能障害系理学療法、運動器障害系理学療法、脳機能障害系理学療法の各分野における高度な専門的知識や技能を有する実践能力を持った人材を養成する。
- 臨床心理学コース：臨床心理士・公認心理師資格を取得して、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪および産業・労働などの現場で人々の心身の健康を支援する人材を養成する。
- 心理学コース：行動神経科学による健康科学の基礎的実証的研究を担う研究者、社会・産業心理学による心身の健康管理に貢献する人材や健康向上に役立つ商品開発とその広報に貢献できる企業人、生徒の心理面への深い理解と学校適応への支援に優れた教員といった専門性を持つ職業人を養成する。
- 救急救命学コース：救急救護活動および災害・防災に関する確かな知識と技術、関連職種と密な連携を取るためのコミュニケーション能力や危機管理能力を持ち、プレホスピタル・ケアにおける救急医療の充実・強化に寄与するとともに、現場で指導的役割を果たすことのできる人材を養成する。

【博士後期課程】

健康科学の教育研究を先導し、学問としての健康科学の発展と、健康科学における臨床現場の高度化を指導的立場で担うことのできる、次のような高度に専門的な人材を育成する。

- 健康科学における研究機関の研究者：目覚ましい進歩を遂げる健康科学分野において、根拠に基づく健康科学「Evidence-Based Health Sciences」を創造し、国際的に活躍できる研究者を養成する。
- 健康科学における高等教育機関の教育者：豊かな人間性と後進育成への情熱を持ち、卓越した専門的知識と識見に裏づけられた研究力の高い教育者を養成する。
- 健康科学における高度専門職者：高度な専門的業務に従事するために必要な研究能力を

備え、現場のイノベーションに寄与できるマネジメント能力を有する人材を養成する。

5. カリキュラムの特色

【博士前期課程】

- 共通基礎科目として、人間の健康を科学的にとらえ、その向上と新しい生き方を創出するという理念を体現するため、「健康科学特論Ⅰ・Ⅱ」を開講するとともに、こころとからだに多角的な視点からアプローチできるように、専門領域の基盤となる知識を幅広く学ぶ科目群を配置する。
- 専門領域の科目群を4つに区分し、理学療法学領域、心理学領域、救急救命学領域、臨床心理学特修領域を配置する。それぞれの領域において、基礎的な研究力を養うとともに、高度な専門知識や技能を学ぶ。
- 1年次に「健康科学特別研究Ⅰ」、2年次に「健康科学特別研究Ⅱ」を配置して、研究指導を行う。研究指導は、学生の研究分野・テーマに対応する主研究指導教員1人と、理学療法学、心理学、救急救命学のうち学生の研究分野・テーマ以外の専門を持つ副研究指導教員1人の2人体制とすることで、2分野の指導が相補的に機能するようにする。

【博士後期課程】

- 共通科目として、健康科学分野における多様な研究方法の特徴を踏まえ、「根拠に基づく健康科学 Evidence-Based Health Sciences」の理論的基盤とその方法論の理解を深めるために「健康科学実践研究法特論」を開講するとともに、健康科学分野における研究者・教育者・高度専門職者に必要な基盤となる知識を身につける。
- 専門科目として、健康科学に関する先端的基礎科学研究である生体機能学、行動神経科学・行動分析学などを学ぶ「健康生命科学領域」と、健康科学に関する臨床かつ実証的な手法を用いた組織的・個別的な支援策や安全管理システムなど応用的研究を学ぶ「健康・生活支援科学領域」を配置する。
- 研究計画から論文作成までのリサーチワークを行う科目として、それぞれ1～3年次に「特別研究Ⅰ～Ⅲ」を配置する。研究指導は、主研究指導教員に加えて、副研究指導教員2人を配置して複数体制とし、主研究指導教員と副研究指導教員の研究分野が健康生命科学領域と健康・生活支援科学領域にわたるようにすることで、研究分野の指導が相補的に機能するようにする。

6. 初年度納付金(学費)

(単位：円)

大学院・研究科名・所在地	専攻・課程名	入学金	授業料	施設費等	合計
京都橘大学大学院 健康科学研究科 (京都市山科区)	健康科学専攻(臨床心理学コース以外)〔M〕	200,000	400,000	125,000	725,000
	健康科学専攻(臨床心理学コース)〔M〕	200,000	400,000	275,000	875,000
	健康科学専攻〔D〕	200,000	400,000	125,000	725,000
龍谷大学大学院 文学研究科 (京都市下京区)	臨床心理学専攻〔M〕	200,000	363,000	300,000	863,000
	臨床心理学専攻〔D〕	200,000	363,000	200,000	763,000
森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科 (大阪市住之江区)	保健医療学専攻〔M〕	300,000	800,000	—	1,100,000
	医療科学専攻〔D〕	300,000	700,000	—	1,000,000
畿央大学大学院 健康科学研究科 (奈良県北葛城郡広陵町)	健康科学専攻〔M〕	190,000	500,000	250,000	940,000
	健康科学専攻〔D〕	190,000	500,000	250,000	940,000

※出典：各大学ホームページ／2020年度入学者対象／諸会費は含まない。

※京都橘大学大学院の初年度納付金は2021年度予定。 ※表中のMは修士課程・博士前期課程、Dは博士後期課程。

資料12 入学意向調査結果：本学健康科学部心理学科（通信教育課程） 3年生

●調査内容

京都橋大学が2021(令和3)年4月に開設予定の健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要を提示し、同専攻に対する入学意向を測定するため、アンケート調査を実施した。

●調査時期

2019(令和元)年12月

●調査対象・方法

本学健康科学部の心理学科（通信教育課程）の在学生(3年生)を対象に実施。本学通信教育システムを利用し、WebのLMS上にアンケートを設定し、設置概要を読んだ上で率直な回答を求めた。

●有効回収率

27.3%(41人/150人)

質 問	選 択 肢	回答数	構成比
●性別	1. 男	8	19.5%
	2. 女	33	80.5%
Q1.大学院進学への関心	1. とても関心がある	13	31.7%
	2. 関心がある	17	41.5%
	3. あまり関心がない	9	22.0%
	4. 全く関心がない	2	4.9%
Q2.本学研究科博士前期課程への入学意向 ※Q1で1、2と回答した者	1. ぜひ入学したい	5	16.7%
	2. 条件があれば入学したい	16	53.3%
	3. 入学したいと思わない	3	10.0%
	4. わからない	6	20.0%
SQ1.希望コース ※Q2で1、2と回答した者	1. 理学療法学コース	0	0.0%
	2. 臨床心理学コース	14	56.0%
	3. 心理学コース	8	32.0%
	4. 救急救命学コース	0	0.0%
	5. 未定	3	12.0%
SQ2.入学したい理由 (複数回答可)	1. 高度な専門職として仕事をしたいから	8	20.0%
	2. 臨床心理士や公認心理師の資格を取得したいから	16	40.0%
	3. 将来、研究機関などの研究者になりたいから	0	0.0%
	4. 将来、大学等の教育者になりたいから	2	5.0%
	5. 将来、臨床現場で指導的立場の職に就きたいから	4	10.0%
	6. 自分の見識や技術を高めたいから	10	25.0%
SQ3.入学時期 ※Q2で1、2と回答した者	1. 設置されたらすぐに	7	33.3%
	2. 数年の社会人経験後	0	0.0%
	3. 5年程度の社会人経験後	0	0.0%
	4. 未定・その他	14	66.7%
Q3.本学研究科博士後期課程への入学意向 ※Q1で1、2と回答した者	1. ぜひ入学したい	2	10.5%
	2. 条件があれば入学したい	6	31.6%
	3. 入学したいと思わない	1	5.3%
	4. わからない	10	52.6%

●自由記述(要望や期待すること)

性別	自由記述内容
女	支援学校の教師をしているので、現在は無理かと思う。夜間があれば行きたいが遠いので、それも無理かと思う。
女	仕事を持っているため、両立、もしくは仕事を休んでの就学となるので、職場の理解を得られるかわからないため。
女	通信教育課程であれば、是非入学したい。
女	仕事との両立。
女	①社会人入学が可能かどうか☑②研究テーマ
女	社会人なので、通信教育で学んでいます。☑ういう人でも可能なのでしょうか。
女	学費が許容範囲であれば。
男	学費。現在社会人なので並行して勉強ができるかどうか。
男	入学金・授業料の価格。
女	仕事や通学の面。
女	仕事を継続しながら、学業を両立しなければならないため、通学が困難なため通信制で受講できれば入学も検討したい。☑
女	入学の難易度、経済的面、自分のやりたい仕事につけるか、時間的な面。
女	仕事が続けられないので、予定を立ててからと思う。
男	通信教育課程があれば入学したい。
女	大学側ではなく、自分が入学するに足る者かどうかは全く未知数のため。
女	実際に自分のやりたいことにつながるのか。
男	通信教育課程があれば入学したい。
女	学び続けるということでは、大学院の進学も考慮にあります。現段階では心理学を学び1年目なので、カリキュラムの内容から自分の具体的な希望にまだつながりません。もっと専門的に学びたいと思うかもしれないのですが、今は心理を卒業した後、精神保健福祉士を取得したいと考えています。
女	大学院も通信課程を設置を希望します。
女	社会人として通信教育課程で学ばせていただき、心理学をもっと学びたいし、研究もしてみたいと思うようになりました。大学院に社会人枠(?)があればと思います。☑
女	ゆっくり学びたいと思います。
女	卒業するのは難しくても入学はレポートなどで難しい方がありがたいです。
男	現在通信で心理学を学んでいますが、より高峰を目指す意味で、大学院での学びが必要だと思っていました。実際通信での大学院は選択肢が少なく、卒業後に進路相談をするつもりでいたので、さらに成長できる場ができることが励みになると思います。
男	通信教育課程の設置も期待したいです。

SQ2. (Q2で1, 2と回答した方) 入学したい理由は何ですか。(複数回答可)

1. 高度な専門職として仕事をしたいから
2. 臨床心理士や公認心理師の資格を取得したいから
3. 将来、研究機関などの研究者になりたいから
4. 将来、大学等の教育者になりたいから
5. 将来、臨床現場で指導的立場の職に就きたいから
6. 自分の見識や技術を高めたいから
7. その他、具体的にご記入ください

SQ3. (Q2で1, 2と回答した方) 入学時期は、いつ頃を考えていますか。(1つに○)

1. 設置されたらすぐに
2. 数年の社会人経験後
3. 5年程度の社会人経験後
4. 未定・その他

Q3. (Q1で1, 2と回答した方) 本研究科博士後期課程に入学したいと思いますか。(1つに○)

1. ぜひ入学したい
2. 条件があれば入学したい(具体的な条件：)
3. 入学したいと思わない
4. わからない

Q4. 本研究科に要望や期待することがあれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

資料13 入学意向調査結果：本学主催研修会・勉強会受講者

●調査内容

京都橘大学が2021(令和3)年4月に開設予定の健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要を提示し、同専攻に対する入学意向を測定するため、アンケート調査を実施した。

●調査時期

2019(令和元)年11月21日・27日

●調査対象・方法

本学の健康科学部理学療法学科の教員が定期的に行っている近隣の理学療法士を中心とする医療職(卒業生を含む)を対象とした勉強会および基礎研修会において、勉強会開始前に健康科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)の設置に関するニーズ調査である旨を説明し、アンケートと設置概要を配布して率直な回答を求めた。

●有効回収数

100%(76人/76人)

質問	選択肢	回答数	構成比
●職種	1. 修士課程・博士前期課程修了	4	5.3%
	2. 本学(学部)卒業	33	43.4%
	3. 本学以外の4年生大学卒業	22	28.9%
	4. 短期大学卒業	1	1.3%
	5. 専門学校卒業	16	21.1%
	6. その他	0	0.0%
●性別	1. 男	54	71.1%
	2. 女	22	28.9%
●年齢	1. 25歳未満	54	71.1%
	2. 25～30歳	15	19.7%
	3. 31歳～40歳	5	6.6%
	4. 41歳～50歳	2	2.6%
	5. 51歳～60歳	0	0.0%
	6. 60歳以上	0	0.0%
●資格・免許	1. 臨床心理士・臨床心理師(両方またはいずれか)	1	1.3%
	2. 理学療法士	71	93.4%
	3. 救急救命士	0	0.0%
	4. その他医療免許	2	2.6%
	5. その他またはなし	2	2.6%
Q1.大学院進学への関心	1. とても関心がある	14	18.4%
	2. 関心がある	24	31.6%
	3. あまり関心がない	31	40.8%
	4. 全く関心がない	7	9.2%

Q2.本学研究科博士前期課程への入学意向 ※Q1で1、2と回答した者	1. ぜひ入学したい	10	26.3%
	2. 条件があれば入学したい	14	36.8%
	3. 入学したいと思わない	2	5.3%
	4. わからない	11	28.9%
	無回答	1	2.6%
SQ1.希望コース ※Q2で1、2と回答した者	1. 理学療法学コース	22	85.2%
	2. 臨床心理学コース	0	0.0%
	3. 心理学コース	0	0.0%
	4. 救急救命コース	0	0.0%
	5. 未定	2	7.4%
	無回答	0	7.4%
SQ2.入学したい理由 ※Q2で1、2と回答した者 (複数回答可)	1. 高度な専門職として仕事をしたいから	19	31.7%
	2. 臨床心理士や公認心理師の資格を取得したいから	1	1.7%
	3. 将来、研究機関などの研究者になりたいから	3	5.0%
	4. 将来、大学等の教育者になりたいから	10	16.7%
	5. 将来、臨床現場で指導的立場の職に就きたいから	8	13.3%
	6. 自分の見識や技術を高めたいから	17	28.3%
	無回答	2	3.3%
SQ3.入学時期 ※Q2で1、2と回答した者	1. 設置されたらすぐに	6	25.0%
	2. 数年以内に	4	16.7%
	3. 5年程度後に	3	12.5%
	4. 未定・その他	11	45.8%
	無回答	0	0.0%
Q3.本学研究科博士後期課程への入学意向 ※Q1で1、2と回答した者	1. ぜひ入学したい	11	28.9%
	2. 条件があれば入学したい	9	23.7%
	3. 入学したいと思わない	0	0.0%
	4. わからない	13	34.2%
	無回答	5	13.2%
<p>●自由記述(要望や期待すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程をぜひ設置してほしい。 ・ぜひ入学したいです。 ・OTも入学可能となれば、とても興味があります。OT開設も期待しています。 ・働きながら通うことのできるカリキュラム設定。今でも配慮いただいているかと思いますが。 			

京都橘大学大学院 健康科学研究科健康科学専攻（博士前期・後期課程）〈仮称〉設置に関する
進学需要調査アンケート（基礎研修・勉強会受講者・卒業生対象）

2019年11月

健康科学研究科改組準備委員会

別紙の京都橘大学大学院 健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要をお読み
いただき、以下の問いにお答えください。

なお、この調査結果は統計的に処理し、知り得た情報は研究科のニーズ把握と文部科学省への設
置申請に係る書類作成に活用する以外に使用することはありません。

まず、あなたのことを教えてください。

- 最終学歴 1. 修士課程・博士前期課程修了 2. 本学(学部)卒業
 3. 本学以外の4年制大学卒業 4. 短期大学卒業
 5. 専門学校卒業 6. その他

- 性別 1. 男 2. 女

- 年齢 1. 25歳未満 2. 25～30歳 3. 31～40歳 4. 41～50歳
 5. 51～60歳 6. 61歳以上

- 資格・免許 1. 臨床心理士・臨床心理師(両方またはいずれか) 2. 理学療法士
 3. 救急救命士 4. その他医療免許 5. その他またはなし

Q 1. 大学院進学に関心がありますか。(1つに○)

1. とても関心がある 2. 関心がある 3. あまり関心がない 4. 全く関心がない

Q 2. (Q 1で1, 2と回答した方) 本研究科**博士前期課程**に入学したいと思いますか。(1つに○)

1. ぜひ入学したい 2. 条件があれば入学したい(具体的な条件:)
3. 入学したいと思わない 4. わからない

S Q 1. (Q 2で1, 2と回答した方) どのコースを選択したいと思いますか。(1つに○)

1. 理学療法学コース 2. 臨床心理学コース 3. 心理学コース
4. 救急救命学コース 5. 未定

(裏面に続く)

SQ2. (Q2で1, 2と回答した方) 入学したい理由は何ですか。(複数回答可)

1. 高度な専門職として仕事をしたいから
2. 臨床心理士や公認心理師の資格を取得したいから
3. 将来、研究機関などの研究者になりたいから
4. 将来、大学等の教育者になりたいから
5. 将来、臨床現場で指導的立場の職に就きたいから
6. 自分の見識や技術を高めたいから
7. その他、具体的にご記入ください

SQ3. (Q2で1, 2と回答した方) 入学時期は、いつ頃を考えていますか。(1つに○)

1. 設置されたらすぐに 2. 数年以内に 3. 5年程度後に 4. 未定・その他

Q3. (Q1で1, 2と回答した方) 本研究科博士後期課程に入学したいと思いませんか。(1つに○)

1. ぜひ入学したい 2. 条件があれば入学したい(具体的な条件：)
3. 入学したいと思わない 4. わからない

Q4. 本研究科に要望や期待することがあれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

資料13-② 「わかあゆ呼吸ケア勉強会」実績

年度	実施日	研修内容	参加人数
2012	9月20日	呼吸ケア・リハビリに関わる解剖学、生理学と呼吸機能・動脈血ガス検査	138名
	10月11日	急性期呼吸リハビリテーションの評価と実際	107名
	11月15日	慢性期呼吸リハビリテーションの評価	143名
	12月6日	慢性期呼吸リハビリテーションの実際	106名
2013	5月29日	呼吸リハビリテーションに役立つ心電図講習会	74名
	7月18日	呼吸器基礎その①COPD	122名
	8月22日	呼吸器基礎その②間質性肺炎	90名
	9月26日	呼吸ケア・リハビリに関わる解剖学、生理学と呼吸機能・動脈血ガス検査	62名
	10月17日	呼吸ケア・リハビリに関わる解剖学、生理学と呼吸機能・動脈血ガス検査	86名
	11月21日	慢性期呼吸リハビリテーションの評価	42名
	12月12日	慢性期呼吸リハビリテーションの実際	22名
	2月20日	酸素療法（HOT）と非侵襲的人工呼吸器（NIPPV）について	45名
2014	9月29日	呼吸ケア・リハビリに関わる解剖学、生理学と呼吸機能・動脈血ガス検査	70名
	10月22日	慢性期呼吸リハビリテーション	72名
2015	5月14日	呼吸リハビリテーションに役立つ心電図入門	90名
	10月5日	呼吸リハビリテーションに必要な解剖、生理、血液ガス、呼吸機能検査の解釈	72名
	10月28日	呼吸リハビリテーションに必要な評価	73名
	11月25日	慢性呼吸不全患者に対するリハビリ	55名
	1月28日	急性呼吸不全患者に対する呼吸リハビリ	64名
2016	9月29日	呼吸ケア・リハビリに関わる解剖学、生理学と呼吸機能・動脈血ガス検査	64名
	10月19日	COPD患者を中心とした慢性呼吸不全患者のリハビリテーションについて	69名
	11月24日	ICUでの理学療法を中心とした慢性呼吸不全患者のリハビリテーションについて	57名
	2月8日	酸素療法（HOT）と非侵襲的人工呼吸器（NIPPV）について	54名
2017	10月5日	解剖生理・検査データの解釈	81名
	11月2日	慢性呼吸不全患者に対するリハビリテーション	75名
	12月7日	急性呼吸不全患者に対するリハビリテーション	42名
	2月14日	酸素療法（HOT）と非侵襲的人工呼吸器（NIPPV）	44名
2018	10月25日	解剖生理・検査データの解釈	74名
	11月22日	慢性呼吸不全患者に対するリハビリテーション	71名
	12月12日	急性呼吸不全患者に対するリハビリテーション	42名
	1月23日	酸素療法（HOT）と非侵襲的人工呼吸器（NIPPV）	23名
2019	9月25日	解剖生理・検査データの解釈	95名
	10月23日	慢性呼吸不全患者に対するリハビリテーション	78名
	11月27日	急性呼吸不全患者に対するリハビリテーション	46名
	1月22日	酸素療法（HOT）と非侵襲的人工呼吸器（NIPPV）	15名

資料14 入学意向調査結果：本学健康科学専攻(修士課程)在学生・修了者

●調査内容

京都橋大学大学院が2021(令和3)年4月に開設予定の健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要を提示し、同専攻博士後期課程に対する入学意向を測定するため、アンケート調査を実施した。

●調査時期

2019(令和元)年11月～12月

●調査対象・方法

本学の健康科学研究科健康科学専攻修士課程の在学生および修了者を対象に健康科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)の設置に関するニーズ調査である旨を説明し、アンケートと設置概要を郵送し回答を求めた。

●有効回収数

30.0%(12人/40人)

質問	選択肢	回答数	構成比
●職種	1. 本学健康科学研究科(修士課程)・1年生	0	0.0%
	2. 本学健康科学研究科(修士課程)・2年生	0	0.0%
	3. 2018年3月修了生	3	25.0%
	4. 2019年3月修了生	9	75.0%
	無回答	0	0.0%
●性別	1. 男	8	66.7%
	2. 女	3	25.0%
	無回答	1	8.3%
●年齢	1. 25歳未満	2	16.7%
	2. 25～30歳	4	33.3%
	3. 31歳～40歳	2	16.7%
	4. 41歳～50歳	3	25.0%
	5. 51歳～60歳	0	0.0%
	6. 60歳以上	1	8.3%
●資格・免許	1. 理学療法士	9	75.0%
	2. 臨床心理士・臨床心理師(両方またはいずれか)	0	0.0%
	3. その他医療免許	0	0.0%
	4. その他またはなし	3	25.0%
Q1.博士後期課程への関心	1. とても関心がある	4	33.3%
	2. 関心がある	5	41.7%
	3. あまり関心がない	2	16.7%
	4. 全く関心がない	1	8.3%

Q2.本学研究科博士後期課程への入学意向 ※Q1で1、2と回答した者	1. ぜひ入学したい	3	33.3%
	2. 条件があれば入学したい	4	44.4%
	3. 入学したいと思わない	0	0.0%
	4. わからない	2	22.2%
Q3.希望領域 ※Q2で1、2と回答した者	1. 健康生命科学領域	1	14.3%
	2. 健康・生活支援科学領域	3	42.9%
	3. 未定	3	42.9%
Q4.入学時期 ※Q2で1、2と回答した者	1. 設置されたらすぐに	3	42.9%
	2. 数年以内に	2	28.6%
	3. 5年程度後に	0	0.0%
	4. 未定・その他	2	28.6%
Q5.本学研究科博士後期課程への入学意向 ※Q2で1、2と回答した者 (複数回答可)	1. 将来、研究機関などの研究者になりたいから	0	0.0%
	2. 将来、大学等の教育者になりたいから	4	30.8%
	3. 将来、臨床現場で指導的立場の職に就きたいから	0	0.0%
	4. 高度な専門職として仕事をしたいから	5	38.5%
	5. 自分の見識や技術を高めたいから	4	30.8%

●自由記述(要望や期待すること)

※条件があれば入学したい

勤務、業績
仕事との時間

・スカイプ等遠隔でも授業可能なシステムがあればより望ましい

京都橘大学大学院 健康科学研究科健康科学専攻**博士後期課程**〈仮称〉設置に関する
進学需要調査アンケート（健康科学研究科修士課程在学学生・修了者）

2019年11月

健康科学研究科改組準備委員会

別紙の京都橘大学大学院 健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要をお読みいただき、以下の問いにお答えください。

なお、この調査結果は統計的に処理し、知り得た情報は研究科のニーズ把握と文部科学省への設置申請に係る書類作成に活用する以外に使用することはありません。

まず、あなたのことについて教えてください。

●在学・修了 1. 1年生 2. 2年生 3. 2018年3月修了 4. 2019年3月修了

●性別 1. 男 2. 女

●年齢 1. 25歳未満 2. 25～30歳 3. 31～40歳 4. 41～50歳
5. 51～60歳 6. 61歳以上

●資格・免許 1. 理学療法士 2. 臨床心理士・臨床心理師(両方またはいずれか)
3. その他医療免許 4. その他またはなし

Q1. 大学院博士後期課程への進学に関心がありますか。(1つに○)

1. とても関心がある 2. 関心がある 3. あまり関心がない 4. 全く関心がない

Q2. (Q1で1, 2と回答した方) 本研究科博士後期課程に入学したいと思いますか。(1つに○)

1. ぜひ入学したい 2. 条件があれば入学したい(具体的な条件:)
3. 入学したいと思わない 4. わからない

Q3. (Q2で1, 2と回答した方) どの領域を選択したいと思いますか。(1つに○)

1. 健康生命科学領域 2. 健康・生活支援科学領域 3. 未定

Q4. (Q2で1, 2と回答した方) 入学時期は、いつ頃を考えていますか。(1つに○)

1. 設置されたらすぐに 2. 数年以内に 3. 5年程度後に 4. 未定・その他

(裏面に続く)

Q5. (Q2で1, 2と回答した方) 入学したい理由は何ですか。(複数回答可)

1. 将来、研究機関などの研究者になりたいから
2. 将来、大学等の教育者になりたいから
3. 将来、臨床現場で指導的立場の職に就きたいから
4. 高度な専門職として仕事をしたいから
5. 自分の見識や技術を高めたいから
6. その他、具体的にご記入ください

Q6. 本研究科に要望や期待することがあれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

資料15 近畿地区における心理学分野・医療系分野を有する大学院の初年度納付金(博士後期課程を持つ大学院)

大学名	研究科名	専攻名	課程	入学金	授業料	教育充実費等	実験実習費等	合計	年度
京都橘大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻(臨床心理学コース以外)	M	200,000	400,000	125,000	-	725,000	2020年度
		健康科学専攻(臨床心理学コース)		200,000	400,000	125,000	150,000	875,000	
		健康科学専攻	D	200,000	400,000	125,000	-	725,000	
同志社大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	M	200,000	668,000	123,000	50,000	1,041,000	2020年度
			D	200,000	671,000	136,000	50,000	1,057,000	
龍谷大学大学院	文学研究科	臨床心理学専攻	M	200,000	363,000	200,000	100,000	863,000	2020年度
			D	200,000	363,000	200,000	-	763,000	
追手門学院大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	M	100,000	500,000	100,000	30,000	730,000	2020年度
			D	100,000	500,000	100,000	30,000	730,000	
関西大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	M	130,000	749,000	-	-	879,000	2020年度
			D	130,000	749,000	-	-	879,000	
			P	130,000	1,000,000	-	-	1,130,000	
森ノ宮医療大学大学院	保健医療学研究科	保健医療学専攻	M	300,000	800,000	-	-	1,100,000	2020年度
		医療科学専攻	D	300,000	700,000	-	-	1,000,000	
関西学院大学大学院	文学研究科	総合心理科学専攻(心理科学領域)	M	200,000	607,000	182,000	52,000	1,041,000	2019年度
			D	200,000	432,000	131,000	-	763,000	
甲子園大学大学院	心理学研究科	心理学専攻	M	350,000	518,000	74,000	-	942,000	2019年度
			D	350,000	618,000	74,000	-	1,042,000	
甲南大学大学院	人文科学研究科	人間科学専攻(環境・芸術・思想専修)	M	300,000	617,000	-	-	917,000	2020年度
		人間科学専攻(心理臨床専修)		300,000	617,000	-	50,000	967,000	
		人間科学専攻	D	300,000	617,000	-	-	917,000	
甲南女子大学大学院	人文科学総合研究科	心理・教育学専攻(臨床心理学コース以外)	M	200,000	450,000	20,000	-	670,000	2020年度
		心理・教育学専攻(臨床心理学コース)		200,000	500,000	20,000	-	720,000	
		心理・教育学専攻(臨床心理学コース以外)	D	200,000	450,000	20,000	-	670,000	
		心理・教育学専攻(臨床心理学コース)		200,000	500,000	20,000	-	720,000	
神戸学院大学大学院	総合リハビリテーション学研究科	医療リハビリテーション学専攻	M	200,000	506,000	154,000	-	860,000	2020年度
			D	200,000	506,000	154,000	-	860,000	
神戸女学院大学大学院	人間科学研究科	人間科学専攻	M	200,000	403,000	193,000	*1	796,000	2019年度
			D	200,000	403,000	193,000	-	796,000	
畿央大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	M	190,000	500,000	250,000	-	940,000	2020年度
			D	190,000	500,000	250,000	-	940,000	
帝塚山大学大学院	心理科学研究科	心理科学専攻(心理学専修)	M	200,000	650,000	-	150,000	1,000,000	2020年度
		心理科学専攻(臨床心理学専修)		200,000	650,000	-	200,000	1,050,000	
		心理科学専攻	D	200,000	650,000	-	150,000	1,000,000	

平均 885,529

※出典：各大学ホームページ／諸会費を除く

*1 神戸女学院大学大学院は、実習費の実費を別途徴収

資料16 救急救命系学科の設置状況（全国）

2019(平成31)年4月現在

No.	所在地	大学名	学部名	学科名	コース等名	入学定員
1	宮城県	東北福祉大学	総合福祉学部	福祉行政学科	副専攻☒救急救命士課程	20
			総合マネジメント学部	産業福祉マネジメント学科		
				情報福祉マネジメント学科		
			健康科学部	医療経営管理学科		
2	栃木県	帝京大学	医療技術学部	スポーツ医療学科	救急救命士コース	* 390
3	群馬県	上武大学	ビジネス情報学部	スポーツ健康マネジメント学科	救急救命士コース	* 410
4	千葉県	千葉科学大学	危機管理学部	保健医療学科	救急救命学コース	* 80
5	千葉県	帝京平成大学	健康医療スポーツ学部	医療スポーツ学科	救急救命士コース	* 190
6	東京都	杏林大学	保健学部	救急救命学科		50
7	東京都	国士館大学	体育学部	スポーツ医科学科		150
8	東京都	帝京平成大学	健康メディカル学部	医療科学科	救急救命士コース	* 180
9	神奈川県	日本体育大学	保健医療学部	救急医療学科		80
10	新潟県	新潟医療福祉大学	医療技術学部	救急救命学科		55
11	岐阜県	東海学院大学	人間関係学部	心理学科		* 110
12	愛知県	中部大学	生命健康科学部	スポーツ保健医療学科		* 80
13	京都府	京都橘大学	健康科学部	救急救命学科		50
14	京都府	明治国際医療大学	保健医療学部	救急救命学科		50
15	岡山県	倉敷芸術科学大学	生命科学部	健康科学科	救急救命士コース	* 80
16	広島県	広島国際大学*1	保健医療学部	医療技術学科	救急救命学専攻	40
17	山口県	東亜大学	医療学部	医療工学科	救急救命コース	* 70
18	福岡県	帝京大学	福岡医療技術学部	医療技術学科	救急救命士コース	* 80

※出典：一般社団法人全国救急救命士教育施設協議会(JESA)の情報をもとに、各大学ホームページ情報も加えて作成

※入学定員に付した*印は学科の入学定員を示す。また、東北福祉大学は課程の定員を示す

*1 広島国際大学は2020(令和2)年4月、保健医療学部救急救命学科(入学定員50人)に改組・収容定員増

資料17 全国の救急出動件数及び搬送人員の推移

区分 年	救急出動件数			搬送人員		
	全出動件数	対前年 増加数・増減率（％）		全搬送人員	対前年 増加数・増減率（％）	
平成15年	4,832,900	274,951	(6.0)	4,577,403	245,486	(5.7)
平成16年	5,031,464	198,564	(4.1)	4,745,872	168,469	(3.7)
平成17年	5,280,428	248,964	(4.9)	4,958,363	212,491	(4.5)
平成18年	5,240,478	▲39,950	(▲0.8)	4,895,328	▲63,035	(▲1.3)
平成19年	5,293,403	52,925	(1.0)	4,905,585	10,257	(0.2)
平成20年	5,100,370	▲193,033	(▲3.6)	4,681,447	▲224,138	(▲4.6)
平成21年	5,125,936	25,566	(0.5)	4,686,045	4,598	(0.1)
平成22年	5,467,620	341,684	(6.7)	4,982,512	296,467	(6.3)
平成23年	5,711,102	243,482	(4.5)	5,185,313	202,801	(4.1)
平成24年	5,805,701	94,599	(1.7)	5,252,827	67,514	(1.3)
平成25年	5,918,939	113,238	(2.0)	5,348,623	95,796	(1.8)
平成26年	5,988,377	69,438	(1.2)	5,408,635	60,012	(1.1)
平成27年	6,058,190	69,813	(1.2)	5,481,252	72,617	(1.3)
平成28年	6,213,628	155,438	(2.6)	5,624,034	142,782	(2.6)
平成29年	6,345,517	131,889	(2.1)	5,738,664	114,630	(2.0)

※出典：総務省消防庁「平成30年消防白書」

資料18 救急救命学関連大学院(修士課程・博士前期課程・博士後期課程)設置状況(全国)

2019(平成31)年4月現在

No.	所在地	大学院名	研究科名	専攻名(課程)	コース等名	入学定員
1	栃木県	帝京大学大学院	医療技術学研究科	救急救護学専攻(M)		5
2	東京都	杏林大学大学院	保健学研究科	保健学専攻(M)	救急救命学分野	*7
				保健学専攻(D)	保健学・救急救命学分野	*4
3	東京都	国士舘大学大学院	救急システム研究科	救急システム専攻(M)		10
				救急システム専攻(D)		3
4	東京都	帝京平成大学大学院	健康科学研究科	病院前救急医療学専攻(M)		3
				健康科学専攻(D)	病院前救急医療学分野	*5
5	神奈川県	日本体育大学大学院	保健医療学研究科	保健医療学専攻(M)	救急災害医療学コース	*8
6	愛知県	中部大学大学院	生命健康科学研究科	保健医療学専攻(M)		*6

※各大学ホームページを参照し作成

※入学定員に付した*印は専攻全体の入学定員を示す

資料19 人材需要調査結果：病院・施設・企業等対象

●調査内容

京都橘大学が2021(令和3)年4月に開設予定の健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要を提示し、同専攻に対する人材需要を測定するため、アンケート調査を実施した。質問は大きく分けて2つで、①対象施設等の職員や社員への本学健康科学研究科の推奨度、および②健康科学研究科修士の採用意向である。

●調査時期

2019(令和元)年11月～12月

●調査対象・方法

①臨床心理士・公認心理師 実習施設、理学療法学科 実習施設、救急救命学科 実習施設を含む、滋賀県・京都府・大阪北部・奈良北部に所在する精神科の病院・診療所、児童福祉施設、老人福祉施設、消防本部、上場企業を中心とした大手企業、合計292件に対し、アンケートと設置概要を郵送し回答を求めた。

●有効回収数

57.2%(167件/292件)

Q 1. 業種	病院・診療所	80	47.9%	製造業	7	4.2%
	児童福祉施設	20	12.0%	情報通信業	0	0.0%
	介護老人保健施設	4	2.4%	飲食・宿泊業	1	0.6%
	老人福祉施設	26	15.6%	金融・保険業	1	0.6%
	消防本部	27	16.2%	建設・不動産業	0	0.0%
	卸売・小売業	0	0.0%	運輸・郵便業	0	0.0%
	サービス業	0	0.0%	その他	1	0.6%
Q 2. 所在地	滋賀県	34	20.4%	京都府	76	45.5%
	大阪府	42	25.1%	奈良県	8	4.8%
	その他	7	4.2%			

質問	選択肢	件数	割合
Q 3. 大学院への進学について	1. 重要である	23	13.8%
	2. 分野によっては重要である	87	52.1%
	3. あまり重要ではない	47	28.1%
	4. 全く重要ではない	5	3.0%
	無回答	5	3.0%
Q 4. 本専攻進学に対する職員・社員への推奨について 【博士前期課程】	1. ぜひ勧めたい	16	9.6%
	2. 条件があれば勧めたい	98	58.7%
	3. 勧めたいとは思わない	49	29.3%
	その他・無回答	4	2.4%

【博士後期課程】	1. ぜひ勧めたい	15	9.0%
	2. 条件があれば勧めたい	94	56.3%
	3. 勧めたいとは思わない	53	31.7%
	その他・無回答	5	3.0%
Q 5. 本専攻の修了生の採用について 【博士前期課程】	1. ぜひ採用したい	32	19.2%
	2. 採用を検討する	81	48.5%
	3. あまり考えていない	45	26.9%
	4. 全く考えていない	5	3.0%
	無回答	4	2.4%
【博士後期課程】	1. ぜひ採用したい	31	18.6%
	2. 採用を検討する	74	44.3%
	3. あまり考えていない	50	29.9%
	4. 全く考えていない	8	4.8%
	無回答	4	2.4%

●自由記述(要望や期待すること)

- ・ 高度専門職業人育成にご尽力ください。
- ・ 当心療内科で今後人員を増やすことができそうになれば応募をお願いしたいです。教員募集の際にもお声がけ頂ければと存じます。
- ・ 職場の意向よりも大切なのは個人の考え方だと思う。
- ・ 介護施設は看護職員の数少なく、介護系の職員が多く看護職員も子育て中の者や定年後の第二の勤め先として勤務する者も多く、残念ながら心身の健康について専門性が高いとは言えない。しかしながらこれからの介護施設では看取りや高齢者の健康や介護予防に対して科学的の考えられる視点が必要になっている。現場で指導的な役割、教育する人が必要と考えています。
- ・ 実践の学びとして臨床に役立つ研究施設となることを期待しています。
- ・ 働き方改革で大変な現場職員不足であり、正直そこ迄、考えられないというのが現状です。
- ・ 弊社は飲食業の為、直接的に関係はないようにも思いますが、知識のある方を採用することによってよりお客様へのサービスを向上できると考えます。
- ・ 研究は大事だと思います。
- ・ 博士前期、後期課程を修了された方を多く育てて頂き、臨床家として目指して行って頂きたいと思います。
- ・ 消防本部としては大学院進学や研究科への入学を求めるものではなく職員本人の意向と考えています。問Q5について当消防本部では、現在初級採用試験(高校卒業程度)を実施しており、採用試験に合格した成績優秀な受験生を採用する予定です。

京都橘大学大学院 健康科学研究科健康科学専攻（博士前期・後期課程）〈仮称〉設置に関する
人材需要調査アンケート（病院・施設・企業等用）

2019年11月

健康科学研究科改組準備委員会

別紙の京都橘大学大学院 健康科学研究科健康科学専攻(博士前期・後期課程)の設置概要をお読み
いただき、以下の問いにお答えください。

Q 1. 貴施設・貴社についてお答えください。(1つに○)

- 【A. 病院・施設】 1. 病院・診療所 2. 児童福祉施設
 3. 介護老人保健施設 4. 老人福祉施設 5. 消防本部
- 【B. 企業】 6. 卸売・小売業 7. サービス業 8. 製造業
 9. 情報通信業 10. 飲食・宿泊業 11. 金融・保険業
 12. 建設・不動産業 13. 運輸・郵便業 14. その他
- 【C. その他】 15. その他(具体的に)

Q 2. 貴施設・貴社の所在地をお答えください。(1つに○)

1. 滋賀県 2. 京都府 3. 大阪府 4. 奈良県
5. その他(具体的に)

Q 3. 貴施設・貴社の職員・社員の大学院進学をどうお考えですか。(1つに○)

1. 重要である 2. 分野によっては重要である
3. あまり重要ではない 4. 全く重要ではない

Q 4. 貴施設・貴社の職員・社員の本研究科への入学を勧められますか。(1つに○)

- 【A. 博士前期課程】
1. ぜひ勧めたい 2. 条件があれば勧めたい 3. 勧めたいと思わない
- 【B. 博士後期課程】
1. ぜひ勧めたい 2. 条件があれば勧めたい 3. 勧めたいと思わない

Q 5. 本研究科の修了生を採用したいと思いませんか。(1つに○)

- 【A. 博士前期課程】
1. ぜひ採用したい 2. 採用を検討する 3. あまり考えていない 4. 全く考えていない
- 【B. 博士後期課程】
1. ぜひ採用したい 2. 採用を検討する 3. あまり考えていない 4. 全く考えていない

Q 6. 本研究科に要望や期待することがあれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。